週刊 YEAR BOOK

1938
昭和13年

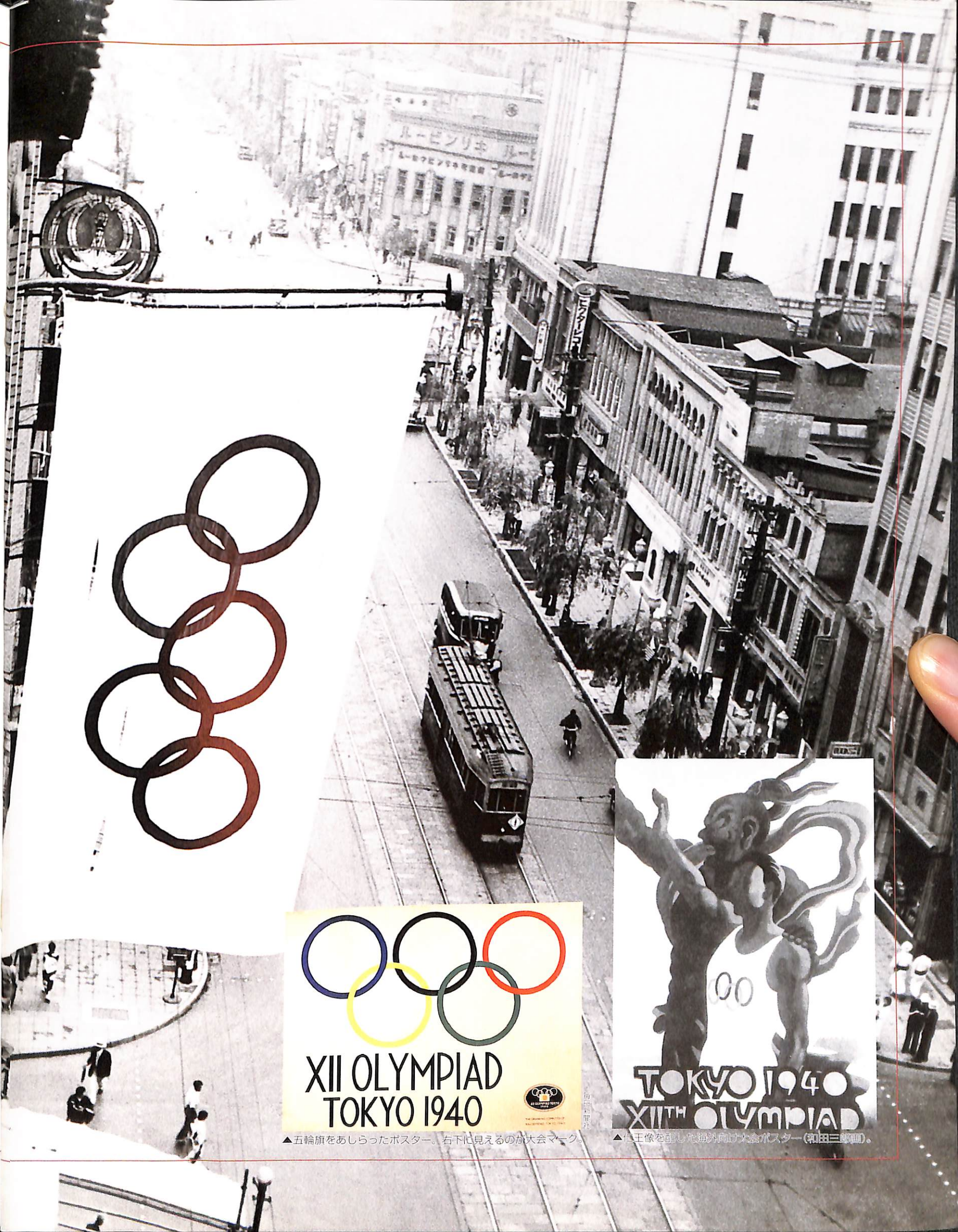
日録20世紀

2|24
平成10年2月24日発行
(毎週1回発行)第2巻第7号
¥560
講談社

女優・岡田嘉子、
「赤い恋」の悲劇

創意工夫!
「代用品時代」がやって来た

エンタツ、アチャコら
慰問団「笑わし隊」前線へ

幻の東京オリンピック!

競技場建設より駆逐艦一隻を！
泥沼化する日中戦争の前に夢と消えた
幻の「第一二回・東京オリンピック」

▲東京大会のＰＲ写真。モデルが手にしている写真は、円盤投げの峯島秀。　毎日新聞社

「紀元二六〇〇年（昭和一五）にアジアで初のオリンピックを！」のかけ声のもと、開催が決まった第一二回オリンピック東京大会。だが人々の願いとは裏腹に、日本は中国との泥沼の戦争に突入、戦時体制の暗い影が五輪をむしばんでいく。そして開催を二年後に控えた昭和一三年、無念の開催返上が決定されたのである。

開催決定の歓声と忍び寄る軍靴の音

「東京オリンピックを中止するというのか！　一体、そりゃあ、どういう理由からなんだ！」

アジア初のオリンピックである東京大会を二年後に控えた昭和一三年三月七日、ＩＯＣ（国際オリンピック委員会）カイロ総会に出席するため、エジプトに到着した嘉納治五郎（七七）は、詰めかけた記者団をこう一喝した。同日の衆議院国家総動員法案委員会における杉山元陸相（五八）の「オリンピックは『支那事変』が続くかぎり開催できないと考えている」という発言に対しての怒りだった。

「戦争を理由にとやかく言うものもあるだがそれが何だ！　誰がなんと言おうと

▶昭和11年8月1日、東京でオリンピック開催決定のニュースを受けて、東京・銀座の松屋にいち早く五輪旗が掲げられた。　毎日新聞社

表紙　昭和13年9月15日封切の松竹映画「愛染かつら」より、上原謙と田中絹代のラブシーン。空前の大ヒットを記録した。　松竹提供

▲五輪旗をあしらったポスター。右下に見えるのが大会マーク。　毎日新聞社

▲仁王像を配した海外向け大会ポスター（和田三郎画）。

▲東京・世田谷の駒沢ゴルフ場の敷地約13万坪に建設される予定だった主競技場。右側が総合競技場、左側は水泳競技場。

そんなことは問題じゃない。東京オリンピック開催の意志は変わらない！」

だが嘉納の思いとは裏腹に、政府は東京大会中止の意向を強めていく――。

東京五輪大会は、もともと昭和一五年の「紀元二六〇〇年」記念事業として昭和五年に東京市長・永田秀次郎が提案したものだった。その後日本初のＩＯＣ委員・嘉納治五郎らの協力を得て招致運動は活発となり、昭和七年のＩＯＣロサンゼルス総会で、五輪開催地として正式に立候補したのである。また同年のロス五輪で三段跳びの南部忠平や馬術の西竹一中尉が金メダルを獲得したこともあり、国民のオリンピック熱も一気に高まった。

そして昭和一一年、ベルリン五輪前日の七月三一日に開かれたＩＯＣベルリン総会で、対抗馬、フィンランドのヘルシンキに九票差の三六票を獲得。ついに東京五輪開催が決定する。この背後には、日本との緊密な軍事・外交関係強化を策していたドイツ総統・ヒトラーの根回しがあったと言われる。

「次期五輪開催地、東京に決定！」の報に、東京中が沸き返った。関係者が待機していた東京市役所には「東京万歳！」の声がこだまし、祝杯があげられた。銀座の街並みは日の丸と五輪旗に彩られ、号外の鐘の音が鳴り響いた。さらに神宮外苑や日比谷公園など市内一〇ヵ所で計一〇〇〇発の花火が打ち上げられ、三機の飛行機が「祝！　紀元二六〇〇年、東京オリンピック開催決定」のビラ二〇万枚をばらまいた。文字どおり、市をあげてのお祭り騒ぎとなったのである。嘉納とともに招致活動に奮闘し、招致演説を行うべくベルリン総会に出席していたＩOC委員・副島道正は、開催決定の喜びと今後の意気ごみについてこう語った。

▲昭和7年のロス五輪で馬術大障害に優勝の西竹一。

◀東京でマラソンのメダルが期待された村社講平。

朝日新聞社

▲有力なメダル候補だった円盤投げの中村コウ。

◀走り幅跳びで日本選手権優勝の吉野トヨ子。

毎日新聞社

競技場建設より駆逐艦1隻を!
泥沼化する日中戦争の前に夢と消えた
幻の「第12回・東京オリンピック」

「私は感きわまって泣きました。日本は世界のこの信頼にそむかず、大会を意義あるものにしなければならない」

だが、このお祭り気分も長くは続かなかった。翌昭和一二年七月七日、盧溝橋事件が勃発、日本は日中戦争に突入し、東京五輪にも暗雲が立ちこめるのである。

戦時体制にとって五輪は邪魔だった

「軍人さんが馬術の練習をやめるならば、国民も全部やめなければならぬ！」

昭和一二年九月六日、政友会の河野一郎は衆議院予算委員会で東京五輪の中止を主張した。前月の二五日、「時局の拡大」を理由に陸軍省がロス五輪金メダリスト・西大尉を含むオリンピック馬術選手の準備訓練中止を発表したのを受けての発言だった。戦争の暗い影がついに東京五輪におよび始めたのである。またその波紋は海外にもおよび、英国ＩＯＣ委員が「戦争が継続する限り、東京に選手は送れない」と発言するなど、東京開催反対の狼煙が上がった。昭和一三年に入っても、日中戦争は終結のめどすら立たず、その結果が冒頭の杉山陸相の発言だったのである。

戦争の長期化は、物資面でも五輪開催の足かせとなった。

東京五輪組織委員会は、東京・世田谷の駒沢に一一万人収容のメインスタジアム建設を決定していたが、それには八〇〇万円もの大金と一〇〇〇〇トンの鉄骨が必要だった。しかし八〇〇万円と言えば、当時の国家予算の約三パーセントに相当し、駆逐艦一隻の建造費とほぼ同額。東京五輪大会は、次第に追いつめられていく。この年六月二三日、近衛内閣は物資需給計画を発表。これは軍需品調達を最優先し、消費の節約を国民に説くものだったが、使用制限品目の中にはスタジアム建設に不可欠な鋼材も含まれていた。これにより、五輪施設の建設は事実上不可能となったのである。

そして運命の七月一五日、五輪を所管する厚生省はついに東京大会の中止を発表する。木戸幸一厚相（四八）は、その理由についてこう語った。

「国をあげて戦時体制に備えている時、オリンピックだけをやることは不可能だ。まことに仕方がないと思う」

だが五輪返上の理由は、物資の不足だけではなかった。「軍部にとって、お祭り騒ぎである五輪は邪魔だった」と、スポーツ研究家で『幻の東京オリンピック』などの著書がある橋本一夫氏は語る。

「戦時体制においては、国民に挙国一致の精神的な緊張を強いる必要があります。もし五輪を開催すれば、国民は浮かれて緊張感がゆるんでしまう。それを軍部はおそれたのです。ヒトラーは国民を団結させるプロパガンダとして五輪を利用しましたが、日本の軍部にはそういう発想はまったくありませんでした」

「アジア初の五輪を東京に」という嘉納らの夢は、戦争によって潰え去った。その夢がようやく実現したのは、大戦の傷も癒えた昭和三九年、実に二六年後のことである。

▲飛び込みプールも併設する水泳場。観客三万人余を収容。

▼主競技場の広場西側に建設を予定された聖火台。

▲ベルリンに続き東京でもメダル候補だった、棒高跳びの大江季雄。

毎日新聞社

▲ベルリン、東京の五輪連覇をねらっていた平泳ぎの葉室鉄夫。

◀一五〇〇メートル自由形の本命だった世界記録保持者・天野富勝。

毎日新聞社

かりに開催されたとしても……東京五輪に山積していた「難問」

●不敬罪と開会宣言問題

五輪の開会宣言は開催国の国家元首が行うと五輪憲章は定めており、日本では天皇がそれにあたる。しかし戦前は天皇が公開の場所でお言葉を述べるなど考えられず、天皇の声がマイクに乗ることさえ不敬とされていた。事実、昭和15年に開催された「紀元2600年記念式典」の際も、ラジオの実況中継は、天皇の勅語のみ放送が中断された。ちなみに、天皇の声が初めてマイクに乗ったのは終戦の玉音放送の時である。このような事情から天皇の開会宣言は不可能だが、ＩＯＣも五輪憲章の権威保持のため反発することが予想され、日本側関係者は頭を痛めていた。

●不参加国続出のボイコット問題

英国ＩＯＣ委員が「戦争の続く限り選手は派遣しない」と発言したほかに、スイス五輪委員会が「日本が軍事行動をやめない限り、東京大会への参加をやめるよう」各国五輪委員会に勧告するなど、海外では東京五輪不参加の気運が高まっていた。開催されたとしても、西側諸国がボイコットした昭和55年の第22回モスクワ五輪のような寂しい大会になった可能性が高かった。

●アジア諸国の反発を呼ぶ「満州国」参加問題

昭和9年、「満州国」は極東オリンピック（後のアジア大会）に参加を希望したが、「満州国」の存在自体を認めない中国やフィリピンの猛烈な反対を受けた。結局この時は参加をとりやめることで決着したが、東京五輪では「満州国を参加させるべき」という軍の一部勢力と、それを拒否するアジア諸国が真っ向から対立することが予想され、「満州国」問題が大きな火種になる可能性があった。

▲昭和11年7月31日、東京開催を決定したベルリンのＩＯＣ総会。手前左端がＩＯＣ委員の嘉納治五郎。

日ソ国境を越えた「赤い恋」の悲劇的結末
スパイ容疑から収容所へ、恋人は銃殺!
女優・岡田嘉子——明かされた〝虚構の一〇年〟

▶越境直前に撮影されたポートレートと、旧KGB文書のファイルから発見された、スパイ容疑の未決囚としてモスクワで撮られた岡田嘉子の写真。拷問と厳しい取り調べの前に、嘉子は別人のようにやせ衰えていた。

塚崎朝子/テレビマンユニオン提供

昭和一三年一月三日、日本の有名女優と、その恋人の若手演出家が、手に手を取って樺太のソ連国境を越えた。戦後も生き残った彼女は、逮捕や獄中生活の真相を語ることはなく、平成四年に八九歳の生涯を閉じた。「棺桶の中まで秘密を持っていった」とささやかれた、岡田嘉子の越境後一〇年間の真実とは?

〝スキャンダル女優〟と左翼演出家の逃避行

「荷物を捨てて走るんだ!」

雪をかき分けて樺太の日ソ国境線を越えた男は、同行の女性にそう叫んだ。後ろからは樺太の日本人警備兵が、国境線ギリギリまで追ってくる。〝銃で撃たれるかもしれない〟と男はあせった。

ちょうどその時、不法越境者に気づいて駆けつけたソ連の警備隊が二人を保護。彼は狂喜し、ロシア語で「我々は日本人だ。ソ連に亡命したいんだ!」と叫んだ。

朝日新聞社

▲杉本良吉。左翼文化運動のリーダーの一人だった。

▲嘉子が共演の竹内良一と失踪。製作が頓挫した「椿姫」。

昭和一三年一月三日極東時間午後六時、女優の岡田嘉子(三五)と、恋人で演出家の杉本良吉(三〇=本名は吉田好正)が、樺太の日ソ国境を越えて亡命した。

一世を風靡した女優の駆け落ち亡命だっただけに、この事件は「赤い恋」と騒がれる衝撃的なニュースだった。

嘉子は、一七歳で初舞台を踏み、帝国劇場の「出家とその弟子」で新劇のスターに昇りつめた。私生活も奔放で、演劇学生との間に男児をもうけ、俳優の山田隆弥らと浮名を流し、今なら〝魔性の女〟と騒がれるような芸能人だったのである。

そんな嘉子が共産党員の杉本良吉と恋に落ちたのは、二年前の舞台公演の際、彼に協力を求めたのがきっかけだった。

杉本は、昭和七年に党指揮部の宮本顕治からコミンテルン(共産主義インターナショナル)と連絡をとるためにソ連行きを命じられたが、密航船を調達できずに失敗。左翼活動への弾圧が激しさを増す中で、召集されて戦地の最前線へ送られるのも時間の問題だったのである。

「越境してソ連へ、と先に言い出したのは私です。その時、彼の顔色がパッと明るくなったのは事実です。そして『もしモスクワに行けたら、僕にはコミンテルンの仕事があるから、君は演劇を勉強するといい』と言ってくれました」

と、後に嘉子が告白するように彼女の提案は杉本にとって〝渡りに船〟だった。

実際、有名女優の嘉子が「国境警備兵を慰問したい」と申し出たからこそ、二人は怪しまれることもなく、樺太にあるソ連との国境地域に近づけたのである。

自分の〝末路〟に考えもおよばない杉本は、保護された後、嘉子に向かって「君のおかげでソビエトに来れたんだ。何で

もするよ。もう一生、君には頭が上がらないな」と無邪気にはしゃいでいた。

戦後も隠し続けた越境後の一〇年間

ところが、当時のソ連は二人が思い描く〝天国〟からはほど遠い場所だった。

スターリン・ソ連共産党書記長への個人崇拝が進む中、前年の昭和一二年には「粛清指令書」が発布され、隣人や兄弟さえ密告し合う地獄絵の中で、数百万の市民が断罪されていた。さらに不運だったのは、ソ連共産党が想定した日本人のスパイ像と杉本の経歴――左翼インテリをよそおってソ連に潜入する――が似ていたことである。任務を記し、党員証明にもなる極秘書類「マンダート」を杉本が持っていなかったのも、致命的だった。

保護された二人は、一月七日に密入国の容疑で逮捕。別々に樺太のアレクサンドロフスクに連行される。別れ際、すがりついて泣く嘉子に杉本は「ありがとう」「トイレ」「さようなら」を意味する三つのロシア語をおぼえさせた。これが、彼らが顔を合わせた最後だったのである。

「取り調べは大変厳しく、私は（立ったまま）五日間眠りを与えられませんでした。私の身体は堪えられなくて、精神状態は異常になってしまいました。通訳のキンという朝鮮人は、スパイだと言えば許してソヴェートの人間としてやるが、そうでなければ日本に帰すと言うのです。日本の監獄で一生送るくらいならスパイとしてソヴェートの監獄に入れられる方がいい」（嘉子の当局への嘆願書より）

結局は、過酷な拷問を受ける杉本の悲鳴を壁越しに聞き、みずからの心身も限界に近づいていた嘉子が「スパイ目的で越境した」と供述。それが証拠となって、杉本も「陸軍参謀本部のスパイで世界的演出家のメイエルホリドと組み、観劇中のスターリンをねらうよう指令を受けた」とデッチ上げの容疑を認めてしまう。

この後、ロシアの演劇革命の中心的人物だったメイエルホリドは日本のスパイとして処刑され、前衛芸術家が次々と粛清された。知識人粛清をねらうスターリンにとって、二人の越境は〝飛んで火に入る夏の虫〟だったわけである。

昭和一四年一〇月二七日、最高軍事法廷は嘉子に「自由剥奪一〇年」を宣告。杉本は、一〇月二〇日に「銃殺刑」を執行されていた。嘉子は、この越境後の一〇年間について「ロシア中部のオレンブルグに居住許可を得て、アナスタシアというお婆さんの家に預けられ、ロシア語を学んだり、絵を描いていました」と説明している。

それに対し、これはまったくの〝虚構〟で、「彼女は極寒の収容所や内務監獄ですごしていた」と証言するのが、テレビのドキュメンタリー番組で収容所生活の真相を明らかにした今野勉氏だ。

「岡田さんは、収容所で荒くれものの男囚に襲われそうになりながら、森林の伐採などに従事していました。さらに言えば、収容所生活を隠した本当の理由は、昭和一八年に移送されたルビヤンカ（人民内務委員会＝後のKGBの本部）の監獄で、対日戦略を担う諜報要員に日本語を教えていたからです。彼女は、任務を口外しない代わりに当局が与えた〝虚構の経歴〟を演じ続けていたのです」

昭和二二年に釈放された嘉子は、モスクワ放送局のアナウンサーを経て五一歳で演劇大学に入学。日本にも里帰りして演劇界で活躍した。しかし、最後まで真実を語ることなく、平成四年に老衰で亡くなっている。

◀昭和14年末から18年初めまで嘉子がいたという、ビャトカ収容所の女囚棟跡。モスクワの北東およそ800キロの厳寒の地にあった。

塚崎朝子　テレビマンユニオン提供（左下写真とも）

▲自白は虚偽だったと訴える当局への嘆願書。嘉子が収容所で書いたもの。

▲フセヴォロド・メイエルホリド。ソ連の演出家。社会主義リアリズムを根底から批判。1940年2月銃殺。

女たちの肖像

祇園の名花から米財閥へ！国際結婚のモルガンお雪が里帰り後も通した〝無国籍〟

稲葉真弓

この年の二月、フランスのマルセイユを出港した旅客船「靖国丸」に一人の日本婦人が乗っていた。三四年ぶりに帰国するモルガン・ユキ＝旧姓・加藤雪（五六）がその人である。四月二四日、日本に着いたユキを待ち受けていたのは温かい出迎えではなく、「金をいくら持って帰ってきたのか」と懐をさぐるもの、借金を申し込むもの、さらには外国人と結婚したことを非難するものなど非常識な人々だった。それもこれも、彼女の数奇な運命が人々の関心を呼んだからである。

外国人そのものがまだ珍しかった明治三七年、アメリカの財閥モルガン家の一員、ジョージ・D・モルガンと結婚し、ニューヨーク、パリで暮らしたユキは、〝国際結婚の名花〟〝玉の輿に乗った女性〟だった。世間の関心が未亡人として帰国した彼女の財産に向けられたとしても不思議ではない。

ユキは、明治一四年京都生まれ。刀剣商だった父親の死後、一四歳で祇園に出るようになった。彼女がモルガンに出会ったのは、姉の一人が開業した置屋のお抱え芸者をしていた一九歳の時のことである。

モルガンは、胡弓の名手でもの静かなユキに一目惚れ。執拗に求婚したが、彼女にはすでに京都帝大（現・京都大学）の学生・川上俊介という恋人がいた。彼女は暗に断りの意をこめて、モルガンに金四万円の落籍料を提示。これは、今で言うと億単位の金というから、法外な値段である。こうした彼女の必死のガードにもかかわらず、俊介の心変わりにより愛は破局、前後してモルガンがユキの目の前で自殺未遂事件を起こすなど、三角関係は新聞ネタにもなった。

明治三七年一月、結婚した二人は渡米のため京都を出たが、七条駅には彼らを一目見ようという人々がひしめき、交通止めになる騒ぎ。いかに彼女の結婚が人々の耳目を集めたか想像がつく。ユキはまもなく夫とともにパリに渡り、社交界の花となったが、大正四年七月モルガンが急死。わずか一〇年余の結婚生活だった。日本を出る時、日本国籍を失い、モルガンの死によってアメリカ国籍も失った彼女は、日本国籍よりもモルガン姓を選び、以後南仏のニースで暮らした。

帰国後は「お金で買える幸福はもういらない」と京都・大徳寺近くに質素な居をかまえ、踊りや生花を教えていたが、昭和三八年五月、八一歳で死去。〝国際結婚の名花〟は皮肉にも最後まで無国籍だった。

▲昭和13年4月上海を訪問、陸戦隊員をねぎらうユキ。

勝者・敗者

プロ野球初の「三冠王」！二七年を経て顕彰された巨人軍・中島治康の偉業

阿部珠樹

昭和四〇年、南海ホークスの野村克也は「三冠王」をめざして驀進していた。打率・打点・ホームランの打撃三部門を独り占めにすることは、打撃人として最高の栄誉である。では、それまで本当に三冠王はいなかったのか。整理されていない戦前の記録調べが始まった。調べたあげく、いた。三冠王が見つかったのである。

この年、つまり昭和一三年、読売巨人軍で活躍していた中島治康（二九）こそ、野村に先んじること二七年、史上初の三冠王だったのだ。この年の秋のシーズン、中島は打率三割六分一厘、打点三八、ホームラン一〇本で、打撃三部門の首位を独占した。ちなみに春のシーズンを合わせても、中島は三部門で首位を占めていた。

しかし、この記録はまったく話題にならなかった。首位打者というタイトルはあっても、打点王、ホームラン王というタイトルはなかった。三冠王という概念が、確立していなかったのである。

だが記録は記録である。中島の偉業は永い眠りを経た後にみいだされ、昭和四〇年に顕彰されることになった。

愛称、「班長」。昭和三年、松本商業（現・松商学園高）時代には甲子園に出場して、投手、四番打者として初優勝の原動力となる。早稲田を経て、巨人に入団してからも、ずっと三番、四番を打って、草創期のプロ野球を代表する強打者だった。

また、悪球打ちでも有名で、ワンバウンドの投球をホームランしたという伝説も残されている。しかし、中島にみいだされてプロ入りした青田昇氏によると、ホームランというのは誇張で、中前安打というのが真相のようだ。

三冠王となった中島の活躍で、巨人は秋のシーズンに優勝を飾る。この年には熊本工業から川上哲治が、松山商業からは千葉茂が入団し、戦前の巨人の黄金時代が形作られていく。

戦後、ユニフォームを脱いだ中島は、新聞記者としてネット裏からアマチュア野球の発展に尽力した。

報知新聞社

▲通算打率2割7分、本塁打57本。昭和62年、77歳で死去。

1月

▲「爾後国民政府ヲ対手トセス」（1月16日）日本政府は中国に和平交渉打ち切りを通告。この近衛声明によって、戦争終結の道をみずから閉ざした。写真は22日、ラジオで声明を発する首相。

◀天龍、満州へ（1月19日）相撲協会を脱退して結成した関西相撲協会を前年に解散、体育連盟嘱託として旅立った。昭和15年には、「満州国」での準本場所興行に参画。写真は大阪駅で。

▲日本軍、青島占領（1月10日）前年より第3艦隊とともに中国沿岸を封鎖中だった第4艦隊が陸戦部隊を組織し、山東半島に上陸、12日には全市を掌握した。写真は1日、「足柄」艦上の第4艦隊司令長官・豊田副武。

▶甲子園球場でスキージャンプ競技（1月9日）大阪毎日新聞社主催で、信州から雪を運び、外野席の2倍、高さ30メートルのジャンプ台を築いて、第1回全日本大会が午後零時半から行われた。小樽中出身の木村隆一が338点で優勝、最長不倒距離は27メートルだった。

毎日新聞社

▼厚生省発足（1月11日）徴兵の健康状態の悪さから陸軍が新たな省の設立に熱意を示し、13番目の省として誕生。業務は保健衛生・社会福祉・社会保険・労働行政にわたり、「健康で強い兵士は健康な国民から」という考え方が根本。

毎日新聞社

◀第1回国際シュールレアリスム展（1月17日）パリ美術学校のギャラリーで開催。出品作はダリ、エルンストらによる蝋人形を住民とした「超現実の街」（写真、右がダリ）やドミンゲスの音の出ない蓄音機など、観客のど肝を抜くものばかり。展示設営を行ったのはマルセル・デュシャンだった。

昭和13年1月

1（土）●新潟県十日町の映画館「旬街座」の屋根が雪の重みで落ち、七四人死亡、百余人重軽傷。
●東京市、木炭バスの試験運行を開始。

2（日）●広島宇品―江田島の定期船沈没。四三人死亡。

3（月）●女優・岡田嘉子と新協劇団演出家・杉本良吉、樺太で国境を突破しソ連に亡命。

4（火）●三ガ日の東鉄管内の乗客は前年比一一㌫増。

5（水）●茨城県波崎町に巨頭鯨の大群。八十余頭捕獲。

6（木）●政府、中国に「徹底膺懲の聖戦完遂」を声明。

7（金）●小杉勇主演「五人の斥候兵」封切。

8（土）●双葉山、陸・海軍省に一五〇〇円を献金。
●蔣介石夫人・宋美齢が米の知人宛の書簡で日本のハワイ侵略を予言とボストン発。

9（日）●警視庁、パーマ業者の新設中止を通牒。

10（月）●「軍艦行進曲」の著作権、海軍省に献納。

11（火）●御前会議で「支那事変処理根本方針」を決定。
●厚生省設置。初代大臣に木戸幸一。

12（水）●富士写真フイルム、光学ガラス・レンズ・カメラの一貫製造計画を発表。

13（木）●柳家金語楼、横山エンタツら中国派遣軍慰問演芸班「笑わし隊」、東京を出発。

14（金）●この年から純日本馬の保存開始、二頭生存の「隠岐馬」を天然記念物に指定、と新聞に。

15（土）●司法省、内妻にも軍事遺族扶助料支給と通達。

16（日）●近衛首相、「国民政府を対手とせず」と声明。

17（月）●軍需工業動員法、発動。一五〇工場を管理。
●パリで第一回国際シュールレアリスム展開催。

18（火）●川越茂駐華大使に帰国命令（20日、対抗措置として許世英駐日中国大使が帰国）。

19（水）●第一回の内地外地防空連絡会議、開催。

20（木）●米シアトルで郵船「日枝丸」爆破未遂が発覚。

21（金）●大阪・南地の各花街、「春の踊り」中止決定。

22（土）●貴族院に女性守衛。女性傍聴者の身体検査係。

23（日）●東京・築地本願寺で戦没者大法要開催。

24（月）●文部省、制服はスフ、革鞄は代用品にと通牒。

25（火）●大豆粕から人造羊毛を製造する初のカゼイン工場が神奈川県寒川村に建設されると新聞に。

26（水）●南京で日本軍憲兵がアリソン米総領事を殴打。

27（木）●ソ連、日本との小包郵便の取り扱いを中止。

28（金）●米靴下製造労働同盟、日本生糸不買反対デモ。

29（土）●文部省、小学校の成績表記を統一。教科は一〇点法、操行は優良可。

30（日）●大蔵省、三億円増税とタバコ一割値上げ発表。

31（月）●産児制限相談所、当局の圧力受け閉鎖。

ニュース・ファイル 1938

フォト＋日録で再現する365日

近衛内閣は一月「国民政府を対手とせず」と声明、日中戦争終結への道をみずから絶った。日本軍は徐州、武漢三鎮を占領し、国家総動員法によって「代用品時代」が訪れる。暗い日々をまぎらすかのように、庶民は双葉山の連勝と映画「愛染かつら」に熱狂した。

◀日本軍、武漢三鎮占領（10月27日）重慶に遷都した国民政府が実質的な拠点としていた武漢地域、すなわち揚子江河口から960キロ上流の漢口・漢陽・武昌を攻略。夜の宮城周辺は祝賀の提灯行列で満ち、提灯屋は大忙し。

毎日新聞社

◀第1期将棋名人に木村義雄八段(2月11日)渇河原で行われた対局で花田長太郎八段(左)を破り、初の実力名人位を獲得。世襲名人制度は13世関根金次郎の英断で終止符。

▼第2次人民戦線事件(2月1日)前年12月に続き、治安維持法による強引な左翼弾圧が繰り返され、"労農派"経済学者・大内兵衛(写真)、美濃部亮吉、宇野弘蔵ら38名が検挙された。

朝日新聞社

毎日新聞社

◀中国機、台湾空襲(2月23日)台北飛行場東方の松山庄上空と新竹州に飛来、爆弾を投下して去った。日本領土への初の空襲で、民家などが被災、死者9人、負傷者29人を出した。写真は松山庄の現場。

[国際写真新聞]

▲右翼が政党本部占拠(2月17日)防共護国団員400名余が東京・銀町の政友会(写真)と芝の民政党本部に侵入、「挙国一党」を訴えて籠城した。代議士の資金提供が判明、全員が不起訴処分。

◀陸軍省、慰安所設置に関し通牒(3月4日)日本軍の蛮行として報道された「南京事件」以後、各地に軍直轄の慰安所が作られた。この日付の通牒文書が残っている。写真は"順番"を待つ兵士たち。

村瀬守保

▼「憲政三巨人」銅像完成(2月11日)憲法発布50周年を記念し、議事堂中央広間で除幕式。「三巨人」伊藤博文・板垣退助・大隈重信の制作者は、順に建畠大夢・北村西望・朝倉文夫。

昭和13年2月

1(火)●大内兵衛・有沢広巳・美濃部亮吉・宇野弘蔵ら労農派教授一斉検挙(第二次人民戦線事件)。
●旭硝子、アクリル樹脂による有機ガラス(航空機の風防ガラス)の生産開始。
●大阪府、公衆浴場での朝風呂を禁止。
2(水)●日本送球(ハンドボール)協会、創立。
3(木)●東大セツルメント、内務省の圧力で閉鎖決定。
4(金)●京大が授業料滞納者に月賦認める、と新聞に。
5(土)●M・ミッチェル『風と共に去りぬ』刊行。
●日本放送協会、「傷病将士慰問の夕」初中継。
6(日)●武装学生三万人が代々木練兵場で建国奉祝式。
7(月)●上海派遣軍、直轄の慰安所を上海郊外に開設。
●内務省、岩波文庫など三三点の休刊を要求。
8(火)●陸軍予科士官学校・幼年学校、過去最多の募集。
9(水)●チャップリンの「モダン・タイムス」封切。
10(木)●厚生省、全国の工場に朝礼と体操実行を布告。
11(金)●外務省、北平の呼称を北京に変更と決定。
●名人戦による初の将棋名人に木村義雄就位。
12(土)●初の全日本ボブスレー選手権大会開催。
●政府、英米仏からの艦船不建造要求を拒否。
13(日)●戸坂潤ら、唯物論研究会の解散を声明。
●日本人初の大司教・土井辰雄の叙階式を挙行。
14(月)●国民精神総動員中央連盟、家庭報国三綱領と毎朝の皇大神宮遥拝など一三の実践項目決定。
15(火)●警視庁、東京・銀座など繁華街で一斉「不良学生狩り」。三日間で七三七三人検挙。
16(水)●内閣情報部、グラフ誌「写真週報」を創刊。
17(木)●全国音楽家団体・楽器製造組合などが楽器輸入制限に対し音楽擁護運動を開始。
18(金)●内務省、石川達三「生きてゐる兵隊」掲載の「中央公論」三月号を反戦あおると発禁に。
19(土)●厚生省、乙・丙種も奉仕をと体力国策案発表。
20(日)●ヒトラー、「満州国」を承認と国会演説。
21(月)●大阪—奉天(瀋陽)間に日本初の国際有線電話。
22(火)●東京市が全市一二〇万世帯からの月一〇銭拠出金で出征者遺家族の援助を計画、と新聞に。
23(水)●朝鮮人男子を対象に陸軍特別志願兵令公布。
●中国軍機、台北爆撃。日本領土へ初の攻撃。
24(木)●米デュポン社、ナイロンの商品化に成功。
25(金)●兵役法改正。教練修了者の在営短縮特典廃止。
26(土)●大日本航空婦人会、航空殉職遺家族の相互扶助組織「荒鷲母の会」の発会式挙行。
27(日)●日独伊親善に学生武道家一二人の派遣決定。
28(月)●東京発声映画製作所、業績不振で解散を決定。

◀ヒトラー、オーストリア併合(3月13日)親独派のインクヴァルトが新首相に任命されると、独軍は歓呼の中、ヒトラー総統を先頭に首都・ウィーンに進軍。オーストリアはドイツの1州となった。

PPS

▲社会大衆党党首・安部磯雄、襲われる(3月3日)東京の自宅で3人組に殴られ、全治2週間の負傷。暴漢は「一国一党」を唱える右翼・光風塾隊員だった。写真は安部を見舞う麻生久(左)と野溝勝(右)。

▶▼幻の万博入場券(3月10日)紀元2600年を記念し、昭和15年3月開会予定で1等2000円抽選券つき前売り券を発売したが、7月、戦争長期化のため延期決定。入場券(右)と購入する水の江滝子(下)。

毎日新聞社

▲火野葦平伍長、中国で芥川賞(3月27日)小説「糞尿譚」が昭和12年下期の受賞作品となり、杭州で「文藝春秋」特派員の小林秀雄(左)から賞品を受けた。31歳。この年「麦と兵隊」「土と兵隊」を発表、好評を博した。

朝日新聞社

▲陸軍省の佐藤賢了中佐、衆院で「黙れ!」(3月3日)国家総動員法案委員会で説明中、中佐の発言資格を問う政友会議員を一喝。翌日、杉山陸相が遺憾の意を表して決着した。後列左が佐藤中佐。

▲文学座初演(3月25日)芸術至上主義的劇団として岸田国士・岩田豊雄・久保田万太郎らが創立、東京・芝の飛行館で森本薫作「みごとな女」を上演した。その一場面から、堀越節子(左)と竹河みゆき。

文学座提供

昭和13年3月

1(火)●京都市内のタクシーがメーター制を初実施。
●綿糸配給統制規則公布施行。初の配給切符制。
2(水)●勝太郎、市丸ら軍慰問芸術団の壮行会開催。
3(木)●陸軍中佐・佐藤賢了、衆院委員会で政友会議員の発言に「黙れ」と怒鳴り委員会紛糾。
●社大党党首・安部磯雄、右翼の襲撃で負傷。
4(金)●朝鮮教育令改正。本土と学校体系を一本化。
5(土)●庭野日敬、霊友会脱け大日本立正交成会設立。
6(日)●横浜港に繋留中の英汽船から天然痘患者発生(7日、乗組員一〇四人を長浜検疫所に収容)。
7(月)●杉山陸相、女子工場労働者養成の必要を声明。
8(火)●衆院、四八億五〇〇〇万円の臨時軍事費可決。
9(水)●巨人、召集された沢村栄治・三原脩らを補うため、川上哲治・千葉茂ら七人の入団を発表。
10(木)●万博入場券の前売開始。二〇〇〇円抽選つき。
11(金)●前年九月に香港で座礁した「浅間丸」、離礁に成功。救助作業員は延べ二万九〇〇〇人。
12(土)●日本無線電信と国際電話合併(国際電気通信)。
13(日)●時局婦人大会開催。白米廃止などを決議。
●ドイツ、オーストリアを併合。
14(月)●永井健三、交流バイアス磁気録音方式を発明。
15(火)●初婚年齢は男二七・九、女二三・九歳と統計局。
●ソ連で右派ブハーリン、死刑。
16(水)●西尾末広、衆院で国家総動員を「スターリンの如く」断行せよと発言(23日議員除名)。
17(木)●豊田四郎監督「泣虫小僧」封切。
18(金)●メキシコ、英米系石油会社の資産を接収。
19(土)●伊からファシスト訪日親善使節団が入京。
20(日)●死なう団盟主・江川桜堂、死去。団員四人殉死。
21(月)●寿屋(現・サントリー)、赤玉ポートワインの懸賞広告。一等は防毒服、三等は防毒マスク。
22(火)●衆院本会議、武道振興に関する決議案を可決。
23(水)●関東水平社、解散を宣言。
24(木)●内務省、防空用「豆ポンプ」の放水試験実施。
25(金)●日米漁業協定成立。アラスカ沖サケ漁禁止。
26(土)●朝鮮・台湾・樺太で未成年者の飲酒喫煙禁止。
27(日)●中国・杭州で火野葦平への芥川賞授賞式。
28(月)●南京に日本軍の傀儡、中華民国維新政府成立。
●学習院初等科、外国語教育を全廃と決定。
29(火)●漢口で国民党臨時大会開催。国民参政会設置。
●戦艦「武蔵」、長崎三菱造船所で起工。
30(水)●文部省、神儒仏三教の宗教団体代表者協議会を開催。国民精神総動員や中国布教を協議。
31(木)●東京駅構内の人力車の廃業が決定する。

共同通信社

▲東京駅の人力車廃業(4月1日)大正3年、駅開業とともに誕生し、全盛期には200台が並ぶ盛況で名物となっていたが、この頃はわずか15台。1ヵ月の収入が300円弱にしかならず、赤字続きだった。

▲「満州国」に発つ鮎川義介(4月30日)前年、傘下の日産を新京(長春)に移駐、「満州国」特殊法人の満州重工業開発を設立し、総裁に。岸信介、松岡洋右とともに「満州の三スケ」と呼ばれた。

朝日新聞社

▲満蒙開拓青少年義勇軍、第一歩(4月16日)茨城県内原訓練所から数え年16~19歳の少年が昭和20年までに約9万人出発。写真は龍江省に着いた山形・香川班の第1陣。

「国際写真新聞」

▲「支那事変」特別税、断行(4月1日)軍事費増大を補うため、3億円増税を実施。国民一人当たりの国税負担額は、2年前に比べ12円も増加した。間接税では入場税が新設され、1割が課税されることになり劇場では新たに「税込み」料金を記した。

「国際写真新聞」

▶ベルギーの成層圏探検機墜落(4月1日)処女飛行中、首都近郊で失速、操縦士は即死した。写真は成層圏研究の権威で、成果を期待していたピカール教授。

▼独でベルリン五輪記録映画公開(4月20日)「民族の祭典」と「美の祭典」の2部構成で、ヒトラーの信頼が厚いレニ・リーフェンシュタールが監督。プロパガンダか芸術か、国際的センセーションが起こる。

昭和13年4月

1(金)●国家総動員法公布(5月5日施行)。●国民健康保険法公布(7月1日施行)。●日本初のはっか入りタバコ「さかえ」発売。
2(土)●台湾総督府、華中への農業義勇団派遣を発表。
3(日)●海洋少年団連盟、八〇団体一万人で結団式。
4(月)●米国で新聞編集長の七五㌫が日貨排斥に反対。
5(火)●鉄鋼増産のため鉄鋼連盟創立。
6(水)●第一〇師団瀬谷支隊、徐州東北の台児荘で敗退(7日、大本営が徐州作戦の発動を命令)。●電力管理法公布。発・送電を国家が管理。
7(木)●東京・代々木に回教学校落成。
8(金)●仏ブルム内閣、総辞職。人民戦線崩壊へ。●第一次満蒙開拓青少年義勇軍の壮行会挙行。
9(土)●東京・高島屋で画劇(紙芝居)コンクール開催。
10(日)●鉄道省、満州(中国東北部)移民団体への三等運賃を六割引き。
11(月)●学生陸上競技連合、落第生の出場禁止と発表。
12(火)●台湾高雄州知事・内海忠司らの蒸気艇が爆発。
13(水)●「軍艦マーチ」「愛国行進曲」作曲者・瀬戸口藤吉海軍軍楽隊楽長に軍事功労賞。
14(木)●各百貨店が正札に物品税表示を決定と新聞に。
15(金)●日本共産主義者団、機関紙「民衆の声」創刊。●科学審議会設置。軍需資源の調査・研究機関。
16(土)●陸軍、貯蓄奨励のため全軍に指導と通達。
17(日)●左翼転向者一三人、対中民衆工作のため出発。
18(月)●東京府商店会連盟、国産品愛用標語の入選作を発表。一等は「胸に赤心身に国産」。
19(火)●閣議、年間目標八〇億円の国民貯蓄運動決定。
20(水)●独でリーフェンシュタール監督のベルリン五輪記録映画「オリンピア」公開。
21(木)●大阪市営地下鉄の梅田―天王寺間が全通。
22(金)●東京府の物価は前年比で二倍、と新聞に。
23(土)●日中戦争第一回論功行賞(四三三九人)発表。
24(日)●元祇園芸妓で米富豪と結婚した「モルガンお雪」、三四年ぶりに帰国。
25(月)●英、アイルランド独立を承認(英エール協定)。●四七品目の銑鉄鋳物製造禁止。
26(火)●行楽客が軍事施設など撮影禁止地域と知らずに撮影しカメラ没収がふえている、と新聞に。
27(水)●秋田県雄物川の改修工事、二一年ぶり完了。
28(木)●農林省が毛皮用に猫の飼育を奨励、と新聞に。
29(金)●東京・新橋に日本初のビジネスホテル「第一ホテル」が開業。六二六室で冷暖房完備。
30(土)●朝鮮の天道教幹部五人、独立煽動容疑で送検。

三島佑一提供

証言・あの日この日

三島佑一(10)

7月5日(火) 〈今日もまた雨で昨日よりもきつく降っていました。一日中降ればいやだなあと思いました。4時間目にこの大雨に旧グランドの上の山が音を立てて落ちました。/梅の寮から見ると、大阪の十三が大水になっていました〉(三島佑一『昭和の戦争と少年少女の日記』)

後に文学者となる三島佑一は当時小学3年生(写真)。虚弱児童だったために、大阪市が西宮の苦楽園に建てた全寮制小学校「六甲郊外学園」にいた。この日は、前日からの大雨が続き、神戸や大阪で大洪水が発生、山津波や崖崩れで多くの死傷者が出た。寮の用務員さんが崖崩れで死んだ。谷崎潤一郎もこの「阪神大水害」を『細雪』に「真っ白な波頭を立てた怒濤が飛沫を上げながら後から〳〵と押し寄せて」と描いている。死者は合計933人、被災者約70万人。 (山崎行太郎)

▲毛沢東「持久戦論」発表(5月26日)中国共産党の抗日根拠地、延安で日中戦争について講演。武漢・広東作戦終了後の日本側の戦略的守勢、中国側の反攻準備となる第2段階を経て、最終段階で中国が勝利すると述べた。

▼米下院、非米活動調査委員会設置(5月26日)国内のナチス支持集団による破壊活動抑制を目的に設立、やがて対象を共産主義者とし「赤狩り」の牙城に。委員長マーティン・ダイズ(右)の名から通称、ダイズ委員会。

▶日本軍、徐州占領(5月19日)4月7日、徐州作戦発動、蔣介石軍主力軍約40万人の一挙撃破をめざして南北から進軍、占領するが中国軍は退却した後だった。写真は5月9日、途上の蒙城に入城する日本軍。

▶津山の30人殺し(5月21日)岡山県で、村民を刀などで惨殺した事件が発生。犯人は鉢巻きに懐中電灯を2本立てた異様な風体で、この事件を横溝正史は小説『八つ墓村』のモデルにした。写真は山狩りに協力する消防団員。

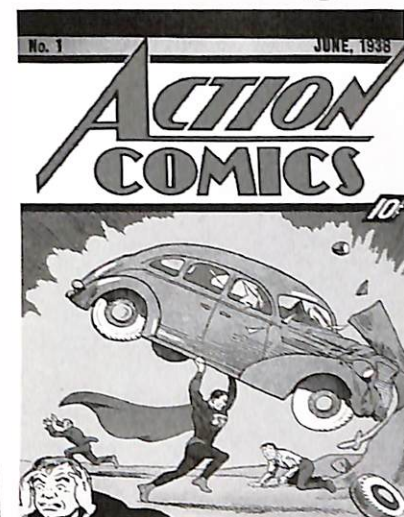
毎日新聞社

◀東大航研機、航続距離世界新達成(5月15日)3日間に木更津、銚子、太田、平塚の4地点を周回し1万1651キロを記録、出発点の木更津飛行場に着陸した。平均時速約187キロも世界記録だった。

「歴史写真」

昭和13年5月

1(日)●ガソリン切符制実施。東京のバス会社は一斉減車、円タクは三分の一減少。●喀痰取締規則施行。路上での唾吐きを処罰。
2(月)●タバコ「バット」の販売減少、と新聞に。
3(火)●「次男坊義勇軍」などの満州永住のため満州移住協会が大陸花嫁二四〇〇人募集、と新聞に。●ヒトラー、ローマ訪問(ムッソリーニと会談)。
4(水)●嘉納治五郎、IOC総会の帰途船中で死去。
5(木)●「中支派遣軍」、徐州作戦で前進を開始。
6(金)●ニューヨーク万博の日本館建設の日本人大工を米労働者が労組未加入として排斥、と外電。
7(土)●厚生省、傷痍軍人療養所一八ヵ所の建設決定。
8(日)●画家・中村研一ら、派遣軍嘱託として渡中。
9(月)●文部省、全国の学校の運動場一般開放を通牒。
10(火)●商工省、トラック・工業用ガソリンを増配。
11(水)●第五艦隊、海上封鎖のため厦門島全島を占領。
12(木)●独「満」修好条約調印。独、「満州国」正式承認。
13(金)●松竹少女歌劇団で愛国婦人会分会の発会式。
14(土)●国際連盟、中国山東省での日本の毒ガス使用非難決議案を採択。
15(日)●東大航空研の長距離機が航続距離世界記録。
16(月)●東京・月島で万国博覧会の地鎮祭挙行。
17(火)●戦車第五大隊小隊長・西住小次郎、徐州作戦で戦死(12月17日陸軍、「軍神」と発表)。
18(水)●東京府美術館で「戦争美術展」開催。
19(木)●第一三師団、徐州を占領。
20(金)●九州に中国機飛来。鹿地亘筆の反戦ビラ散布。●綿糸販売価格取締規則公布。公定価格制開始。
21(土)●岡山県西加茂村で青年が村内一一軒を襲撃し三〇人を殺害(小説『八つ墓村』のモデル)。
22(日)●中国国民政府、日中戦争での中国人罹災者は約三〇〇〇万人と発表。
23(月)●双葉山、五場所連続全勝優勝。六六連勝。
24(火)●文部省、夏休みに五日程度の勤労訓練など学生・生徒の集団作業実施要項を提示。
25(水)●東京に江戸期の五人組模した防犯隣保会発会。
26(木)●近衛内閣改造。外相・宇垣一成、文相・荒木貞夫。●毛沢東、延安の抗日戦研究会で持久戦論発表。
27(金)●大日本青少年ドイツ派遣団、鹿児島を出発。
28(土)●山一証券前社長、株暴落で会社に損害と自殺。
29(日)●原料輸入途絶でマッチ軸を二分短縮と新聞に。●厚生省、職業紹介所四〇〇ヵ所設置を決定。
30(月)●中国機、九州に襲来。九州・山口に空襲警報。
31(火)●国策スフ研究で全国染織関係技術官会議開催。

ARCHIVE PHOTOS/デジタルハウス

▲「スーパーマン」登場(6月)米漫画誌「アクション・コミックス」が創刊号に掲載、アメリカ人の正義と力への信仰を体現した主人公はたちまち人気者に。6年前に高校生が創作したキャラクターだった。

◀陸軍服制改正(6月1日)明治45年(1912)以来の一新。写真は下士官以下の軍装で、戦闘行動にかなうように詰襟をやめて立折襟を採用したほか、階級章は小型にして襟元につけるようにした。

出光興産提供

▲世界最大級のタンカー「日章丸」進水(6月13日)出光商会と大同海運が共同出資。1万500総トン。この年海軍に徴用され、昭和19年2月、ダバオ諸島沖で撃沈された。

▲中国大使館閉鎖(6月11日)すでに外務省は外交リストから削除、国民政府の指令で代理大使の楊雲竹以下、全員の引揚げとなった。写真は東京府が入り口に貼った11日付の封印。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▶中国軍、黄河堤防を爆砕(6月12日)徐州占領後西進する日本軍の勢いを止める作戦だったが、折からの大雨で日本軍占領地を冠水させたばかりでなく、約60万の罹災民を出した。

◀精神分析の創始者フロイト、英国に亡命(6月6日)ユダヤ系だったため生地オーストリアで迫害を受け、ルーズベルト米大統領らの助力で脱出。パリ経由でロンドンに向かった。

「歴史写真」

昭和13年6月

1(水)●臨時通貨法公布施行。アルミ硬貨が復活。
●陸軍、二七年ぶり服制改正。肩章から襟章へ。

2(木)●J・デュビビエ監督「舞踏会の手帖」封切。

3(金)●杉山元、陸軍大臣を辞任。後任に板垣征四郎。

4(土)●商工省、出征中の中小商業者保護のため一万人の労務奉仕員の全国配置を決定。
●高群逸枝『母系制の研究』刊行。

5(日)●国民政府、漢口市民二〇万人に避難を布告。

6(月)●東京府小河内村、七年にわたるダム建設の補償紛争で東京市の解決案覚書に調印。

7(火)●東大、初の名誉教授を選考。牧野英一ら九人。
●広東への無差別爆撃に各国の非難集中。野村直邦上海駐在海軍武官が爆撃継続と声明。

8(水)●新協劇団、久保栄の「火山灰地」を初演。

9(木)●文部省通牒で学生・生徒の勤労動員始まる。

10(金)●閣議、首・陸・海・外・蔵の五相会議設置決定。
●早大剣道部、米で剣道を紹介するため出発。

11(土)●エノケン一座、日劇に初出演。

12(日)●中国軍、日本軍西進阻止のため占領地中牟北方で黄河の堤防を決壊させる。六〇万人罹災。

13(月)●ソ連極東GPUのリュシコフ、日本に亡命。
●朝鮮で初の特別陸軍兵志願者訓練所入所式。

14(火)●英での国際捕鯨会議に日本が初めて正式参加。

15(水)●大本営、武漢作戦、広東作戦の実施を決定。

16(木)●東京市流入人口調査完成。原住者は四四%。

17(金)●司法省、戸籍の族称と平民の字を削除と決定。

18(土)●駒沢競技場建設に勤労動員五千余人と新聞に。

19(日)●本土の原綿供給削減でスフ時代到来と新聞に。

20(月)●鉄鋼配給統制規則公布(7月1日切符制実施)。

21(火)●空襲警報を統一。サイレンは六秒一〇回。

22(水)●宮城県警察部、警官に靴に代え草鞋使用許可。

23(木)●馬徴用で価格が上昇、軍馬も不足と新聞に。
●商工省、繊維・皮革の最高小売価格を指定。

24(金)●日中戦争勃発以来、死産が急増と新聞に。
●万国赤十字、日本の中国空爆非難決議を可決。
●五相会議、本年中に戦争目的達成の方針決定。

25(土)●ソ連外相リトビノフ、日独の侵略政策を批判。

26(日)●貯蓄推進に全国の銀行・郵便局が日曜営業。

27(月)●川端龍子ら大日本陸軍従軍画家協会、結成。

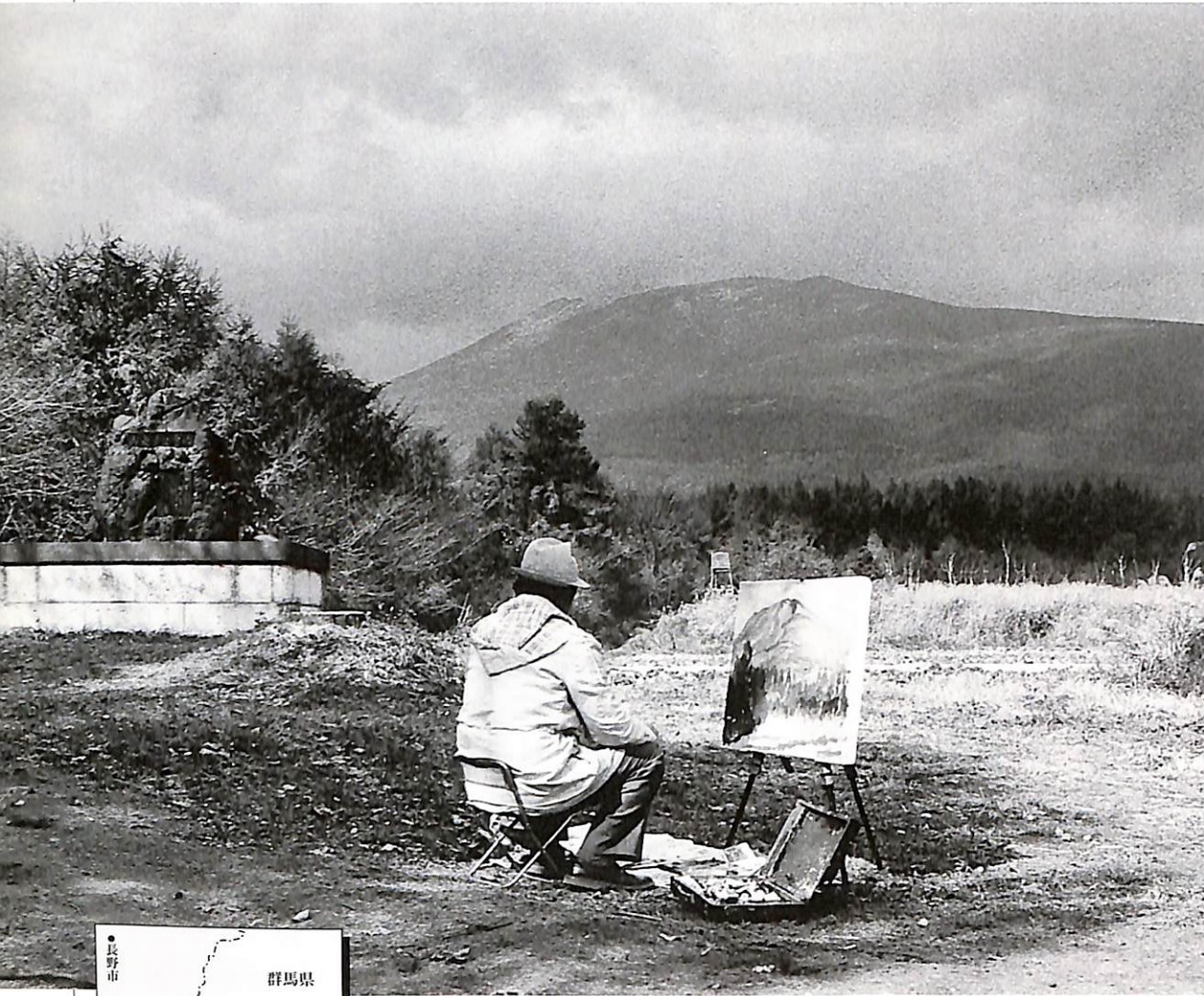
28(火)●農林省、全国二三ヵ所の山村に簡易ソーダパルプ工場を建設と決定。

29(水)●本土民需向け綿製品の供給が禁止される。

30(木)●関東に一八年ぶりの豪雨(27日~。東京で七万余戸浸水。麻布区の崖崩れで二三人死亡)。

「現場」を歩く 軽井沢町

国策「満州国分村移民計画」に参加した旧大日向村村民の六〇年

山本徹美

▲追分原の大日向地区から、浅間山を望む。左手に見えるのは、昭和天皇の巡幸記念碑。 但馬一憲

昭和一三年七月八日、長野県大日向村(現・佐久町)では、少年音楽隊が先導する一団の行進が行われた。

本隊を構成するのは村民二六家族一一九人。彼らは「満州国分村移民計画」の第一回家族招致に参加した団員である。一行は羽黒下駅(小海線)で浅川武麿村長らの送別を受け、新潟へ。翌日、新潟港から「満州丸」に乗船、「満州国」吉林省舒蘭県四家房へと向かった。(大日向分村開拓史編集委員会編『満州・浅間開拓の記』による)

中国大陸への移民は昭和一一年八月七日、広田弘毅内閣が打ち出した「国策の基準」にもりこまれており、同年から二〇年間に一〇〇万戸、五〇〇万人を移住させるという内容だった。大日向村村民はその第一陣として満州(中国東北部)へ入植したのである。

当時、大日向村は深刻な経済危機におちいっていた。ここのおもな産業は養蚕と林業(炭焼き)だったが、生糸価格の暴落や山林資源の減少により収入が激減。村では更生委員会を結成、検討を重ね、現存の四〇六戸、一六二五人のうち半数にあたる二〇〇戸、約八〇〇人(最終的には七五三人)の移民によって打開をはかった。

植民地から開拓地へ

本隊入植の一年前、先遣隊の三七人が派遣された。その中に大林作三氏(当時・二〇歳=現・大日建設会長)がいた。

「在郷軍人の幹部に引率されて、森林の伐採に行った際、"匪賊"が襲撃してきて、幹部五人が銃殺された。入植前、"匪賊"のことはまったく聞いておらず、話が違うと思ったけど、もう、遅かった」

移住先の四家房は現地の住民一一二五戸、約四七〇〇人によって水田一〇〇〇町歩、畑二五〇〇町歩がすでに耕作されていたが、満州拓殖公社が一戸当たり約六〇円で購入、大日向村民に解放した。

「移民と言うけど、植民地政策でした。そこに無理があった」(前出・大林氏)

分村移民の生活は終戦とともに終焉、引揚げ時に三七三人が死亡。ほとんどが発疹チフスによるもので、大林氏も四人の子どもを失った。生還者は二五七人。

「大日向に帰っても、もう土地はない。私どもは調査団を組み、浅間山麓追分原(現・軽井沢町)の国有林を踏査、開墾地に決めた」(同前)

大林氏の妻、ツマ子さん(故人)は満州に行かなくても開墾地はあったのに、と子どもをしのび、悔しがったという。

昭和二二年、国有林六〇〇ヘクタールが払い下げとなり、六五人が入植、その後、満州から引揚げてきた仲間二〇〇人が加わる。開墾は三〇年に終了。一戸平均二・五町歩を取得。ところが三九年頃から別荘ブームとなり、農地はどんどん売却された。

「私も建設業に転向しました。今では、農家はわずか一軒しかありません」

大林氏は節くれだった指を一本、立てた。その半生を支えたものがそこに刻まれているように、私には思えた。

朝日新聞社

▲昭和13年7月8日、旧大日向村の満州開拓村民第1陣が出発。和田伝の小説で全国にも知られた。

ベストセラー

『麦と兵隊』『風立ちぬ』と戦争の時代の〝生きる意義〟

すでに戦時体制が強化されつつあった時代に、生きていることの意義を真っ向から取り上げた文学作品が話題になり、その一部はベストセラーになった。

ベストセラーになったのは、火野葦平の『麦と兵隊』で、雑誌「改造」に掲載後、時を経ずして単行本として刊行されるや、奪い合うような勢いで読まれ、たちまち一〇〇万部を超えた。

中国大陸で徐州へと向かいながら戦う日本兵の様子が、実にリアルに描かれており、ビジュアルなメディアがほとんどなかった時代における、戦地からの貴重なドキュメントでもあった。現場の兵士たちの生命の躍動や死に直面する現実がありありと伝えられた。中川一政の表紙絵も、それを視覚的に表現したもので、内容を強くアピールするものだった。

また、ヨーロッパ文学に造詣の深い堀辰雄の『風立ちぬ』もこの年刊行された。結核のサナトリウムを舞台に、愛する女性が死に近づいていく、その一刻一刻を克明に記した作品で、今もなお究極の恋愛小説といった呼び声が高い。しかしその背景にあったのは戦争の時代である。自分の意志とかかわりなく、否応もなく死を見つめざるをえないという点では、結核も戦争と同じような側面を持っていたのだ。

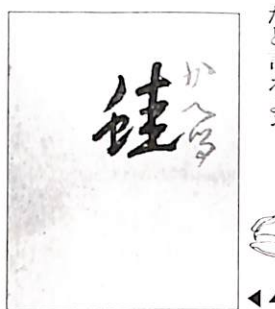
「おれ達がかうしてお互に与へ合つてゐるこの幸福、――皆がもう行き止まりだと思つてゐるところから始つてゐるやうなこの生の愉しさ、――さう云つた誰も知らないやうな、おれ達だけのもの」(同書)をたしかなものにするために、この作品は書かれたのである。

この年、草野心平詩集『蛙』も刊行されている。「生きてゐますことはこんなに切なくうれしいものですのに」といった一節も見られるこの詩集には、蛙をして生の讃歌を歌わせているという趣があった。草野心平は、蛙を主題にした『第百階級』という詩集を昭和三年にすでに刊行しているが、蛙の持つ意義も時代とともにだいぶ変わってきたと言えよう。

◀「麦と兵隊」(改造社、1円)

▶「風立ちぬ」(野田書房、二円)

日本近代文学館提供(上下とも)

◀▲高村光太郎装幀の『蛙』(三和書房、3円)。挿画は馬淵美意子。

スターと名場面

田中絹代・上原謙の共演で「愛染かつら」一世を風靡!

この年九月、映画「愛染かつら」(野村浩将監督)が大ヒットし、主演の田中絹代はもちろん、共演した二枚目スター上原謙も、その人気をさらにたしかなものにした。ストーリーは、上原謙演じる医師が、父親の経営する病院の看護婦・高石かつ枝(田中絹代)に恋をするが、さまざまな障害が待ち受けているというもの。高石かつ枝が、看護婦から一躍人気歌手になるというサクセスストーリーも重なるラブロマンスで、その主題歌とともに一世を風靡した。その後も続編が作られたり、リメイク版ができたりと、古典的名作となっていった作品。

八月に公開された「綴方教室」(山本嘉次郎監督)はベストセラーの映画化。高峰秀子を主役に、徳川夢声と清川虹子が脇を固めて評判を呼んだ。

また洋画では、人気絶頂のチャップリンの傑作「モダン・タイムス」が封切られた。機械文明と不景気を徹底的に皮肉ったこの作品は、抱腹絶倒のシーンを連発させることで、矛盾だらけの現実に鋭い刃を向けたのである。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「藤十郎の恋」(長谷川一夫)「スタア誕生」(ジャネット・ゲイナー)

マツダ映画社提供

▲天才子役の名をほしいままにしていた高峰秀子は「綴方教室」でもみごとに少女役を演じた。

▲「モダン・タイムス」のチャールズ・チャップリン(左)と、チャップリンの妻でもあったポーレット・ゴダード(右)。

川喜多記念映画文化財団提供

▼人気俳優のカップルで話題を呼んだ「愛染かつら」の上原謙(左)と田中絹代(右)。

マツダ映画社提供

モノ語り'38

「固形インキ」、ビタミンE剤「ユベラ球」、銀貨の代わり「五十銭紙幣」戦時体制が生んだ〝新顔〟たち

▶ビタミンE剤が戦時下で売り出された 桜ケ岡研究所(現・エーザイ)が研究開発を進めていたビタミンE剤が認可され、5月31日「ユベラ球」として発売された。チョコレートがけの球状のビタミンE剤が150個入って3円50銭。これは金1グラムとほぼ同じ価格だった。おもな効能として不妊症・流産癖の改善があげられており、〝生めよ殖やせよ〟の時代にふさわしい薬という見方もされていた。今では老化を防ぎ、癌などの成人病を予防するビタミン剤として注目度が高くなっている。

▼軍需用に開発されたインキが民間にも 中国大陸の寒冷地対策として、軍から固形インキの開発を要求されたパイロット万年筆(現・パイロット)は、この年、ついに開発に成功、9月には軍に納入した。凍らないことと持ち運びしやすいという大きなメリットがあり、民需用としても販売された。後に、インキ瓶に必要なガラス材が不足した時、大いに役立つことになった。

パイロット筆記具資料館蔵

▼マッチも公定価格で販売されることに 戦時体制は、日常生活レベルでも各種の統制となって具体化した。日常生活に欠かせなかったマッチもその例にもれず、並型で10箱12銭、大型で1箱15銭となった。これは大同燐寸発売のロングセラー「桃印マッチ」の並型で、1箱にマッチが100本弱入っていた。

たばこと塩の博物館蔵

▶戦時体制下で発行された紙幣 戦時下では金属の節約と供出が不可欠になるが、五十銭銀貨もその運命をたどり、代わりに「五十銭政府紙幣」が発行された。印刷機も軍票や占領地の紙幣印刷に追われてフル稼動していたため、印刷が簡素化されていた。富士と桜をデザインしたこの紙幣もそのひとつで、偽札を防ぐ工夫としては、地模様の中に、小さくニ・ホ・ンの3文字を刷りこむなどしてあった。 大蔵省印刷局蔵

金貨に換えることができなくなった紙幣

戦時体制下の紙幣には、どこか不安がつきまとう。ただの紙切れになるおそれもあるからだ。日本では明治30年から紙幣は金貨と交換できる兌換券となり、イメージとしては金貨と等価のものだった。ところが、世情が不安定になるにつれ、金の確保は国家的な課題となり、昭和6年には金貨との兌換が停止されてしまった。紙幣のイメージはがらりと変わったのである。写真の五円紙幣は、昭和17年に発行された最後の兌換券で、同じ紙幣でもそれが持つ意味は、50銭の政府紙幣とまったく異質のものであった。

◀事実上不換紙幣だったが、題号や兌換の文言はそのまま。

お札と切手の博物館蔵

▼自動販売機の切手版登場 オートマチックなものに対する技術開発の意欲は、ポストの脇に切手の自動販売機を備えた「切手自動販売機付ポスト」を設置するにいたった。はがき用の2銭切手と、書状(封書)用の4銭切手を販売したものの、故障が多く、したがって苦情が絶えなかったこともあって、1年たらずで撤退の憂き目を見た。 逓信総合博物館蔵

▶最もポピュラーになったラジオ この頃は情報と娯楽を求めてラジオがさらに普及したが、その需要にこたえようと、NHKは〝放送局型受信機規定〟を定め、メーカーに製作を依頼した。こうしてできた受信機第1号が「放送局型3号ラジオ」で、遠距離でも受信できる、高周波1段増幅つきの4球ラジオだった。

NHK放送博物館蔵 乙咩雅一

人物クローズアップ

淡谷のり子（三〇）

当局は目の敵にしたヒット曲「雨のブルース」一〇万枚記録

▲昭和一三年、「雨のブルース」発売の頃の淡谷のり子。"ブルースの女王"の名を不動のものにしたこの曲は、泥濘の中を進む中国戦線の将兵たちに愛唱されたという。

毎日新聞社

昭和一三年五月、一〇万枚のレコードセールスを記録した（現代のミリオンセラーにあたる）ヒット曲「雨のブルース」（服部良一作曲、野川香文作詞）が発売された。

歌手は淡谷のり子（三〇）。その前年に発売され、一五万枚に達するヒットとなった「別れのブルース」に続く"淡谷調"和製ブルースの第二弾だった。

淡谷はまだ世間に日露戦争の余燼がくすぶる明治四〇年、青森市でうぶ声をあげた。生家は裕福な呉服商だったが、明治四三年の青森の大火をきっかけに没落。女遊びにおぼれ留守がちの父と、そんな父をとがめるでもなく家族の世話をやくかたわら、当時、女性の解放を叫んでいた、平塚らいてう主宰の雑誌「青鞜」を読みふける母との間に育った。

やがて、母は家出同然で、のり子・とし子の姉妹をともない上京。これを機に私立東洋音楽学校（現・東京音楽大学）に進学したことが、淡谷と歌との運命的な出会いとなった。卒業（昭和四年）後は、生活に苦しむ家族を救うため将来を嘱望されたクラシックの世界から、歌謡曲の世界へと転身。卒業の翌年に発売された「夜の東京」を皮切りに、昭和五年の映画主題歌「ラブパレード」のヒットを機にスターへの道を駆け上り、「別れのブルース」「雨のブルース」の大ヒットへと続く。

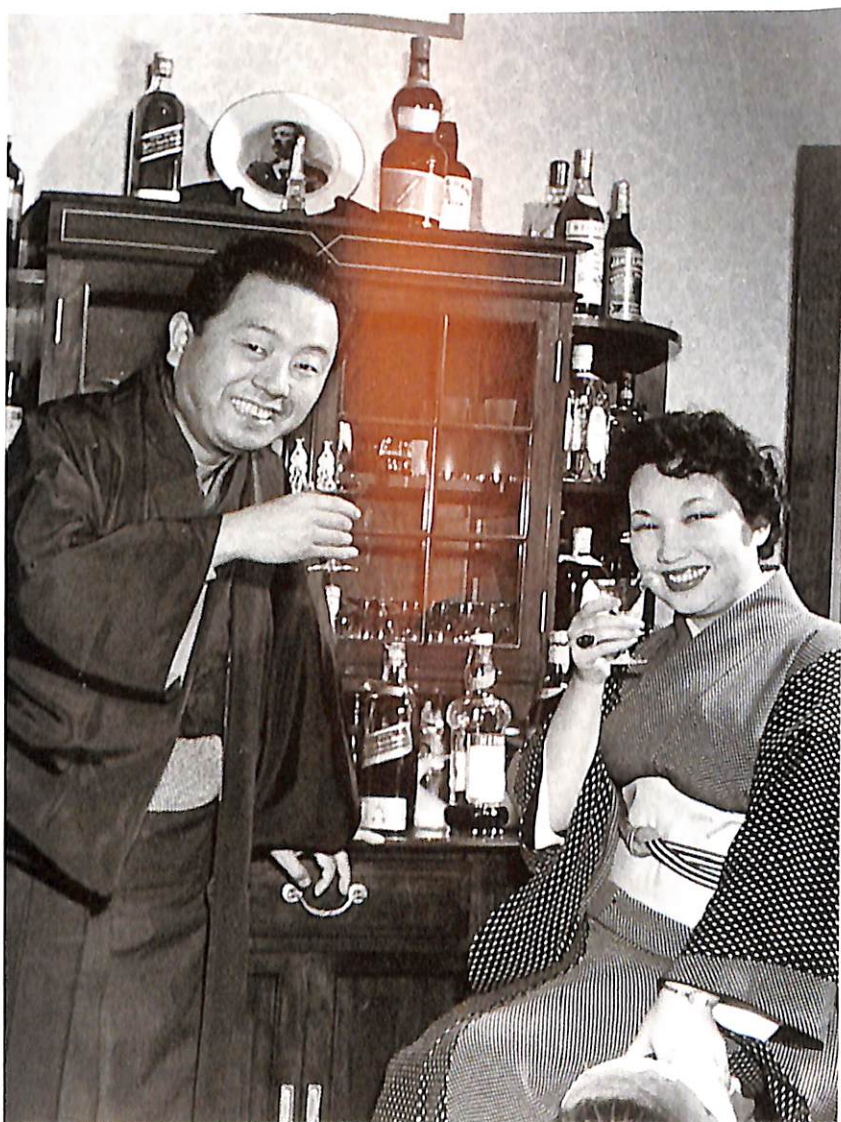
しかし、順風満帆だった淡谷の前途に暗雲がかかり始めたのもこの頃だった。一二年に勃発した日中戦争の戦火拡大にともなう軍靴の響きが、流行歌の歌声まで踏みにじるようになったのだ。とりわけジャズやブルースを好んで歌う淡谷を、当局は目の敵にし、次第に仕事も干されるようになった。そんな彼女を支えたのが大衆の声援だった。

「慰問に行くと、戦地の兵隊さんに（『別れのブルース』『雨のブルース』の二曲を）歌え歌えってせがまれて。当局にこの歌を歌うことはまかりならんときつく言われている私も、処罰を覚悟で歌いました。これが、歌わずにいられますか」

と、淡谷は述懐する。淡谷の歌声に涙ぐむ兵士たちを見て、弾圧にも屈しない流行歌の底力を彼女は感じ、感激したと言う。人々に夢や希望を与える流行歌手という仕事に誇りを感じたとも言う。クラシックという揺りかごで育まれた彼女が、もしクラシックときっぱり訣別した瞬間があったとしたら、それはこのひときだったであろう。

やがて、日本の敗戦。淡谷は、好きな歌を気がねなく歌えるようになった。だが、時代の風潮に流されず、どこかさめた目で世の中を見つめる視点は、昔も今も変わらないようだ。

「今は、どんな分野にも、自分はプロだと胸を張れる人がいなくなってしまった。自由と引き替えに自分の言動に責任を持てる、大人がいない。そんなことを考えていると、ふと戦前のダンスホールを思い出す。あそこには大人がいたから、文化の香りがあった。ところが今の日本には……そんな話を、なにくれとなく世話をやいてくれる妹のとし子と話すこの頃です」

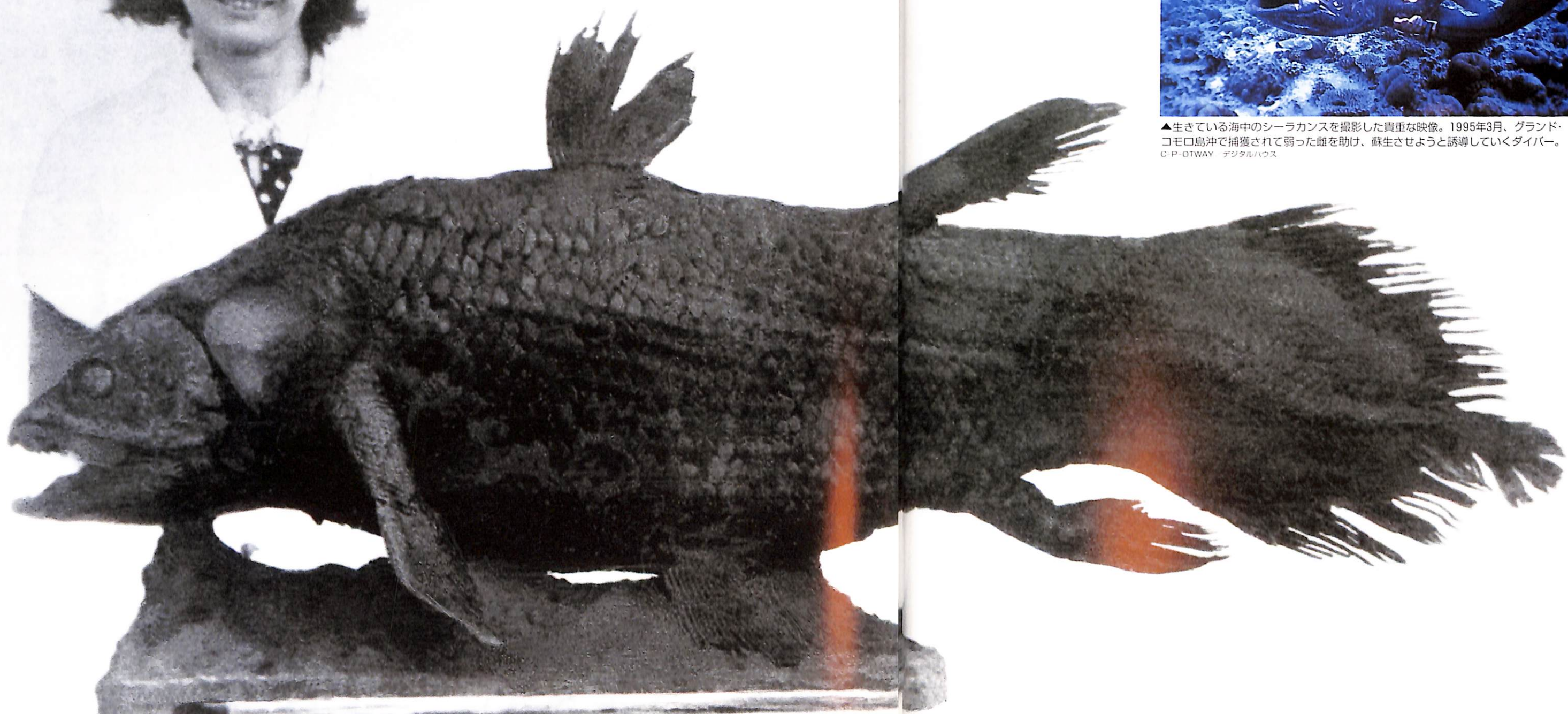
と、今年九〇歳になった淡谷は、静かに語る。

▲作曲家·服部良一と。昭和14年、このコンビの「夜のプラットホーム」は発売禁止となる。

▲「雨のブルース」の楽譜。

決定的瞬間

“四億年の記憶”が蘇る！南アフリカ沖での大発見 シーラカンスは生きていた

▲生きている海中のシーラカンスを撮影した貴重な映像。1995年3月、グランド・コモロ島沖で捕獲されて弱った魚を助け、蘇生させようと誘導していくダイバー。
C・P・OTWAY　デジタルハウス

◀世界で初めて現存することが確認されたシーラカンスの標本。後ろに立っているのは、発見者のコートネイ・ラティマー。以来、1990年までに172体が捕獲されている。

JLB Smith Institute of Ichthyology　デジタルハウス

南アフリカのイーストロンドンという小さな港町のカルムナ川河口沖で驚くべきものが発見された。一九三八年一二月二二日、暑い夏の朝（南半球では夏）のことである。

この町の自然博物館につとめる若い女性学芸員コートネイ・ラティマーに、「トロール船の『ネーリン号』がたくさんの標本を持って帰港した」という内容の電話がかかってきた。博物館の展示準備に忙しかった彼女は躊躇したが、思い切ってタクシーを呼び港に向かった。甲板にはサメ、エイ、タラなどが山積みになっていて、珍しい魚がいるとも思えなかった。ところがその山の中に、青い鰭のある魚体が目についた。引っぱり出してみると、体長一・五メートル、体重五七・五キロ、一〇枚の鰭を持ち、体色は青色で銀色の斑紋がある奇妙な魚が現れた。

甲板にいた老船員は「トロール網で捕れたんだよ」と言った。この大きな“海のトカゲ”のような魚は船に引き上げた時にもまだ生きていて、船長が頭部に手を触れると口をパタンと閉じたという。

彼女は直感的にこの魚の重要性に気がついた。人の体ほどある大きな硬骨魚類をなんとかタクシーに運びこんで博物館まで持ち帰り、写真に撮り、精密なスケッチを行った。保存方法を考えたが、これは難問だった。田舎の博物館には大きな標本を保存する設備はない。そこで町の剝製業者の協力を得て、ホルマリンに浸けた布で魚を包んだ。そして、南アフリカにいるたった一人の魚類学者J・L・B・スミス博士（四一）に電話をかけ、スケッチと状況を説明した手紙を書いて鑑定を求めた。

スミス博士はラティマー学芸員のスケッチと手紙を見た時、あまりにもシーラカンスに似ているのに驚かされた。絶滅したはずの化石魚が生きていたというのは大発見である。しかし、この事実はいかにも常識を逸脱している。「生きたシーラカンスを発見」と発表しても、間違っていれば学者として世間の笑いものになるだけだろう。結論を出すのに慎重にならざるをえなかった。「とにかく実物を見るまでは何も言えない」というのが博士のとった態度であった。

この発見が新聞に発表されたのは翌年二月二〇日、地元の新聞「ディスパッチ」紙が最初であった。後年、スミス博士はスケッチを見た時の印象を「脳の中で爆弾が炸裂した」と語ったそうだ（キース・トムソン『シーラカンスの謎』）。

シーラカンスは約四億年ほど前の古生代デボン紀に出現し、白亜紀の六五〇〇万年ほど前に恐竜とともに滅んだ魚として知られていた。分類学的には総鰭亜綱・シーラカンス目に属する。

デボン紀から白亜紀まで三億年以上進化することもなく、しかも六五〇〇万年もの間、インド洋のコモロ諸島の水深二〇〇メートル前後の洞窟穴にひっそりと生息し続けたシーラカンスの発見は、一般の人々にも感銘と驚きを与えた。

現在シーラカンスの生息数は、魚類学の権威・上野輝彌氏の推定によると、一〇〇〇個体程度ではないかという（講談社現代新書『シーラカンス』）。体長一・八メートル、体重九五キロにもなるシーラカンスの脳は、たった五グラム。しかし、ある意味でこの小さな脳には、四億年の地球の記憶が詰まっているのである。

美の出会い

ディートリッヒにギャバン！ 戦前最後のブームを支えた野口久光の〝映画ポスター〟

ヨーロッパ映画を輸入する東和商事合資会社（後の東宝東和）の、昭和一三年における配給本数は一五本に達した。その中には、マルセル・カルネが初の監督をした「ジェニイの家」、文芸大作「レ・ミゼラブル」の第一部「ジャン・バルジャン」、ベルリン国立オペラ座交響楽団の演奏が評判になった「第九交響楽」など、いずれも大ヒットを飛ばした傑作が、ずらりと並んでいる。その映画ポスターのほとんどを手がけたのが、野口久光（二九）だった。

学生時代から大の映画狂だった野口は、東京美術学校（現・東京芸術大学）在学中から、東和商事をしばしば訪れ、昭和八年に卒業すると、試験も受けず、履歴書も提出せずに、いつのまにか入社していた。卒業制作にドイツ映画「制服の処女」のポスターを描いた野口は、さっそく東和配給映画のポスターを描くことになる。忙しい時には週に四、五枚は描いたという。絵だけでなく、文字もすべて手書きである。

映画ポスターといえば、スチール写真と文字の組み合わせが多いが、野口の描くポスターは、本人の映画への憧れと深い理解から、その映画の持つ主題や雰囲気を象徴的にとらえる方法をとっていた。絵筆に何のためらいもなく、のびのびと描き出されるジャン・ギャバン、マルレーネ・ディートリッヒなど銀幕のスターたち、そして文字の造形的な美しさは、映画を愛した野口ならではのものだった。

この野口のポスターを、映画評論家の淀川長治は絶賛する。

「これは見事などと、とおりいっぺんにほめるべきものではない。（略）ヨーロッパ映画のムードをこれくらい絵の中に摑んだ映画ポスターはもうこれからも見られまい」（野口久光『ヨーロッパ名画座』）

こうした野口のポスターを生み出したのは、優れたヨーロッパ映画を日本にもたらした東和商事であるが、それも、学生時代から野口の才能に注目し、その仕事を信頼していた社長の川喜多長政とかしこ夫人のバックアップがあったからこそである。

川喜多夫妻によって選ばれ、買い取られた名画の数々は、次々と日本で上映され、毎年「キネマ旬報」のベストテンに名をつらねていった。こうして昭和九年から一一年にかけて、東和は年間三〇本以上の映画を配給。戦前の黄金時代を迎える。また一五年にはレニ・リーフェンシュタール総指揮によるベルリン・オリンピックの記録映画「民族の祭典」を上映。空前のブームを巻き起こした。

しかし、このように大人気を博した洋画界も、昭和一四年に施行された「映画法」によって次第に軍の統制が強まり、ついに一七年には映画の輸入が途絶、映画部は解散に追いこまれていった。野口は上海に渡り、日中合弁の中華電影につとめ、そこで終戦を迎えた。

昭和二〇年、いち早く東和は復活し、やがて戦後の黄金時代を迎えることになる。野口のポスター制作も再開し、主演女優マリア・シェルの「居酒屋」（三[illegible]年）、トリュフォー監督が自分の仕事部屋に飾ったという「大人は判ってくれない」（三五年）などの傑作を生み出していく。これらのポスターの影響を受けて、映画ポスター画家を志すようになった和田誠らのイラストレーターも多い。

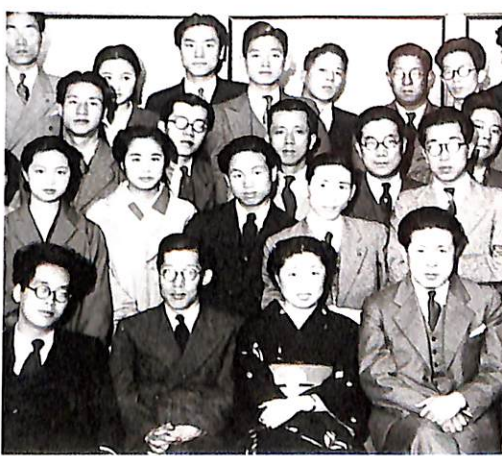
「野口はいつもスケッチブックを持っていて、街で出会った知り合いや女優を、抜群のデッサン力でサラサラと描き上げていたものでした」

と、平成六年に亡くなった野口をおしんで映画評論家の双葉十三郎は語る。

「芸が細かくて、華麗なタッチで描かれる野口のポスターは、大変な評判だった。ポスター広告の中でも歴史に残るのではないだろうか」

昭和四五年に東和を辞めるまで、野口は一〇〇〇枚を超えるポスターを描いた。その後、ミュージカルやジャズの味わい深い評論を書くが、これも映画という総合芸術の中で鍛えられたからであろう。

◀「望郷」（昭和14年公開）。ジュリアン・デュビビエ監督、ジャン・ギャバン主演。1年間宣伝を繰り広げ、大ヒットした。
川喜多記念映画文化財団（このページ3点とも）

▶「どん底」（昭和一二年公開）。ジャン・ルノワール監督。ジャン・ギャバン主演。

▲昭和13年頃の東和の社員たち。最前列右端が川喜多長政・かしこ夫妻。3列目、左から2番目が野口久光。

◀「鎧なき騎士」（昭和一三年公開）。ジャック・フェデー監督、マルレーネ・ディートリッヒ主演のイギリス映画（ポスターは二六年、再公開時のもの）。
川喜多記念映画文化財団（河西）

クツのオーツカ資料館

「軍靴の時代」に失われた“自分の足元”への愛着を伝える

神奈川・横浜市

桑原茂夫

「靴」という字は革が化けると書く。何に化けるのか——足をくるむ道具に化けるのである。ではどのようにして化けるのか。その答えの一端を「クツのオーツカ資料館」で得ることができた。

靴作りの老舗、大塚製靴の工場入り口の一階ロビーに、この小さな博物館はあるが、そこに靴職人の仕事場が再現されている。

その前に立つと、靴と人間が本来どのような関係にあったのかを、思い知らされることになる。つまり、靴があってそこに人間の足を滑りこませるのではなく、もともと靴は一人一人の足に合わせて、それをくるむように作られたものなのである。靴職人たちは、どんな足にも応じられるだけの腕前を持っており、できあがった靴は、その人だけの、ある意味では最高の贅沢品であった。

▲手作りが当たり前だった時代の靴職人の仕事場は、こんな様子だった。 服部昌一郎

▲靴作りにも機械が導入されるようになったが、初めのうちは、靴職人の腕前が発揮される余地はあった。

かつて靴とはそういうものだったのである。かつて、と言っても、そんな遠い時代のことではない。明治から大正にかけてのことだ。

そしてここには、手作りが基本だった時代の代表的な靴も展示されている。明治の鹿鳴館時代の婦人靴や大正時代に女学生が袴とともに履いたブーツ、同じ頃、モボやモガがそのモダンぶりを示すために履いた靴などで、それぞれ実に精巧にできていた。

一方、ご多分にもれず靴の世界にも、機械化による大量生産のきざしが見え始める。それがはっきり姿を見せるのは、軍靴の生産である。軍が大量の靴を必要としたのである。一九三〇年代は、そういう意味で靴製造技術の転換期でもあったわけだ。

ここでも明治時代の陸海軍の軍靴や、昭和五年に開発・製造された“昭五式編上靴”などを見ることができる。

軍靴なのだからもちろん頑丈さは必須の条件だが、足にフィットするかどうかも重要である。どんなにコストをかけて作った頑丈な靴でも、足を痛めたり必要以上に疲れさせたりするものであったら、コストに見あわない結果を生む。ところが、軍隊では「足を靴に合わせろ」という暴論がまかり通った。

▲手作りの時代の靴はさすがに高級感がある。写真右上に見えるのが鹿鳴館時代の婦人靴。

靴に合わない足がダメなのだという言い方は、主客転倒もいいところなのだが、これを一概に笑ってしまうわけにもいかない。もともとは一人一人の足に合わせて仕立てるものであった靴が、一般に普及するにあたって、大量に生産されるようになったからだ。その中から自分に合った靴をさがしだすのが今では当たり前の感覚になっている。

自分の足元のことなのだから、原点に立ち帰ってじっくり考えてみてもいいのではないか、というのがこの博物館をひとわたり見て得た感想である。そんなことを感じさせるとは、さすが、明治五年に創業された、もともとは職人気質の強い靴屋さんの博物館なのである。

●クツのオーツカ資料館
神奈川県横浜市港北区日吉本町四—八—一
大塚製靴株式会社日吉工場
☎〇四五—五六一—二七〇一
東急東横線日吉駅からバスで一〇分「大塚製靴前」下車
開館時間＝一〇時～一六時
休館日＝土、日、祝日および工場の休日
年末年始　入館料＝無料

▲ここにはいろいろな民族が履いている靴も、コンパクトにまとめて展示されている。

「大豆繊維の洋服」「セロハンのハンドバッグ」
ヒト・モノ・カネ“総動員”のための創意工夫
「代用品時代」がやって来た！

▲昭和13年7月19日～27日、日本橋三越で開かれた「必需物資代用品展覧会」。サメの剥製とサメ皮製のグローブなどが並ぶ。

▼サメ皮から作った野球のグローブとミット。水に弱いのが最大の難点だった。

毎日新聞社

昭和一三年二月二四日、国家総動員法案の上程とともに、本格的な「代用品時代」が到来する。前年、北平（北京）郊外・盧溝橋での衝突で始まった日中戦争が長期化する中、日本国内では経済統制が強化され、輸入品や軍需用品の民間使用が禁止されていった。「代用品」の考案は、まさに戦争の遂行を支えるために、国民に犠牲を強いる苦肉の策であった。

蛙やサケ皮の靴など珍品が続出の展覧会

「当時、私は香川県の丸亀で女学校の教師をしていましたが、私の周囲には、針金のハエ叩きの代わりに、竹を細かく割いたものを作ったり、石臼ならぬ粘土臼を作ってちゃっかりひと儲けした人もいました。私などはあぶら虫退治のため、

▲電気絶縁材をヒントに考案された、バルブの靴底。革よりも丈夫と言われた。

▲紙布製の帽子とスフ製のランドセル。各55銭、1円90銭(大阪・高島屋調べ)。 毎日新聞社(このページ全点)

▲絹屑を圧縮してゴムで固めたベルトと歯車、ビロード製サンダルなど。

▲日本橋三越の「代用品展」に出品された、ウツボ皮製の婦人靴と婦人草履。

◀ベークライト製の安全かみそりと石鹸容器。彩色が自由な点と軽さが特色。

▶繻子張りの代わりに、絹地に油で加工を施したオイル・シルク・パラソル。

ホルマリン系の薬品で代用品を作り、県の役人に大変感謝されました。毒ガス兵器の原料にするため、殺虫剤の使用が禁止されていたからです」

こう語るのは、㈳日本発明学会会長の豊沢豊雄氏（現・九〇歳）である。

本格的な「代用品時代」は昭和一三年二月二四日、国家総動員法案の上程とともにやってきた。

広田弘毅外相（療養中の近衛首相の代理）の提案理由は「本法の適切なる運用により軍需品を充足して陸海軍に不断の戦闘力を供給すると当時に、民需品を補給して国民経済の運行を確保するためのものであり、国民の愛国心を基盤として挙国一致の協力により初めてその効果を全うすることができる」というものであった。

それは兵器用の鋼材や衣料など、軍需品の供給を拡充させるための経済統制の実施を意味していた。たとえば鋼材は陸軍向け六四万㌧、海軍向け五三万㌧を最優先させるというものであった。

すでに昭和一二年末には、毛織物、綿製品にスフ（ステープル・ファイバー）の混用が強制されていたが、一三年六月に国内向け綿製品の供給禁止、七月一日には、革製品の使用までが禁止され、対象品目は、ランドセル、ハンドバッグをはじめ、野球ミットやボール、ボクシング・グローブなど広範囲におよんでいた。

そして一三年七月一五日、物資動員計画が発動され、金属、繊維、皮革、ゴムなどが絶対使用制限を受けると、産業界はもちろん、個人までをも巻きこむ〝代用品ブーム〟が到来したのである。

代用品作りは国をあげての大事業であった。東京事業組合連合会では傘下会社の関係者や専門家による懇談会を開き、商工省では生産・販売企業の重役や部長、技術者を集め、代用品〝育ての会〟を作るなど、代用品の普及と振興をはかっていった。また、商工省や各新聞社は、全国的に代用品展覧会を企画。七月一九日から二七日には三越主催、商工省後援の展覧会が、日本橋三越五階の催し物会場で開催され、ガラス、紙やセロハンのハンドバッグ、蛙やサケの皮の靴、竹ののれんなどが出品され人気を博した。

商工省では九月一五日現在で出品を希望するものが五〇〇人、その点数約四〇〇〇の申し込みを受け付けたというほどの過熱ぶりであった。

「いよいよ代用品時代がきた。数年前から代用品についての警告的宣伝は相当行なわれたが、まさかその時代がこんなに早く来るとは誰も予想しなかったろう」

評論家・大宅壮一（三七）が「日本評論」（昭和一三年九月号）にこう記したくらいの様変わりであった。

国民生活を犠牲 創意工夫の奨励

日中戦争下、国民の生活必需品には、常識では考えられないような代用品も多数出現した。

最も多かったのは、綿花や羊毛に代わる繊維関係の代用品であった。中でも注目されたのは大豆から作る洋服。原料の大豆は当時の満州（中国東北部）から取り寄せ、油をのぞき蛋白質の液状にして繊維を作るという〝画期的〟なものであった。

岩やガラスも服地の原料になった。金属分をのぞき、一三〇〇度の高温で液化して高圧空気で吹き飛ばすと、糸になるというわけだ。およそ繊維になるものは、葦、麦、桑なども動員され、鯨や海草の着物までが登場した。

金属の代用品も次々に現れた。これは科学技術を駆使してもそう簡単にはできないため、陶器の金槌や鉈など別の素材を加工し利用するものが多かった。が、陶磁器の素焼きに合成樹脂を浸透させ高圧と高熱を加えた高力陶器は用途が広く、鉄瓶やナイフにまで利用された。そのほか金属の代用品として、セメントの金庫や郵便ポスト、セルロイドの便器などが好評を博した。皮革代用品にも奇抜なアイディアが用いられた。そのほとんどは動物質の皮であったが、大は鯨から小は金魚の皮までが利用され、食用蛙の皮などはガマ口になって現れた。

各家庭の台所や浴室の道具類にも異変が起きた。たとえば、金属製のバケツやタライ、桶は当然木製に早替わり、銅のタガは竹にとって代わられた。また液体燃料の代用品は金属以上に困難だったが、石炭油化とアルコールの混用が奨励され、アルコールの原料となるジャガイモやサツマイモまでもが燃料となったのである。

しかし、しょせん勝てる戦争ではなかった。日中戦争に引き続く日米開戦の前年（昭和一五年）での国力の差はあまりにも歴然としていた。鉄鋼生産でアメリカは日本の一二倍、石炭生産が八・五倍、石油消費可能量にいたっては日本が二〇〇万㌧、アメリカは三〇〇〇万㌧と、一五倍もの開きがあった。

「代用品」の考案は、ヒト、モノ、カネすべてを戦争に動員するための苦肉の策にすぎなかったのである。

◀昭和13年5月1日、長期戦に備えるとして、切符制によるガソリンの消費規制が始まった。「ガソリン一滴は血の一滴」の標語も登場。 「写真週報」

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

川上今朝太郎

▼**青バス、木炭車に（7月16日）**石油は軍需最優先となり、東京地下鉄道乗合課は年内に全車を改造すると決定。木炭を燃やして一酸化炭素などのガスでエンジンを作動させた。3年後、乗用車はすべて代用燃料化。

毎日新聞社

▲**阪神大水害（7月5日）**梅雨前線による大豪雨で、六甲山系傾斜地が崩壊し河川が氾濫、阪神間で死者616人、被災家屋約16万戸にも達した。写真は神戸・三宮駅の濁流。谷崎潤一郎はこの時の住吉川の様子を、小説『細雪』に描写した。

▲**ドイツ隊、アイガー北壁初登攀（7月24日）**ヘックマイアー、フェルク、オーストリア人のハラーとカスパレクが、12本爪のアイゼンを用い、現代登山の幕を開いた。

毎日新聞社

▶**張鼓峰占領（7月31日）**11日以来ソ連軍が占拠していたソ「満」国境を現地軍が独断で攻撃。写真は8月6日のソ連軍空爆。8月11日の停戦までに死傷者は1400人にも。

毎日新聞社

▶**「五・一五事件」首謀者出所（7月4日）**日中戦争1周年記念で3度目の恩赦を受け、海軍側被告3人が出獄、これで軍関係者は全員出獄となった。写真右から元中尉・三上卓、元少尉・黒岩勇、元中尉・古賀清志。

「国際写真新聞」

◀**「経済警察」創設（7月29日）**内務省警保局に経済保安課を設置、全国に千余名の専門官を配属して、綿・ゴムなど経済統制品の生産・販売の違反者を取り締まった。

昭和13年7月

1（金）●皮革使用制限規則公布施行。革製品を禁止。●両国の花火大会が時局を鑑み中止と、新聞に。

2（土）●商工省、木綿・皮革製品の買いだめ続出に一人一品厳守を訓令。

3（日）●水害後の東京・向島の工場寄宿舎で二一人が集団赤痢（前日までに全市で一一四人）。

4（月）●三上卓ら「五・一五事件」首謀者、恩赦で出獄。

5（火）●関西に豪雨。六甲山系の諸河川が決壊（阪神大水害。九三三人死亡、一万三二〇〇戸流失）。

6（水）●中国で国民参政会第一次大会。抗日強化決議。

7（木）●次官会議、官庁の夏期半日制廃止を決定。●東京連合婦人会、毎月七日を不買デーと決定。

8（金）●体協、優勝盾・メダルの製造禁止を通牒。

9（土）●物品販売価格取締規則公布施行。麻・ゴム製品など指定品目の値上げを禁止し公定価格制へ。●花王石鹼、毛織物用洗剤「エキセリン」発売。

10（日）●警視庁、女性のダンスホール入場を禁止。

11（月）●張鼓峰で日ソ両軍が国境紛争（張鼓峰事件）。

12（火）●東京と神奈川、食パン一斤を四五〇㌘に統一。

13（水）●陸軍、営内靴を下駄で代用と全軍に通知。

14（木）●国語審議会、常用漢字の字体を整理簡略化。●暴利取締令改正。全商品に価格表示義務化。

15（金）●政府、東京五輪の中止と万博の延期を決定。

16（土）●東京青バス、五五四台全車を木炭車にと決定。

17（日）●厚生省、国民登録制度基礎案の大綱を作成。●日独伊親善協会、「防共親善富士登山」を実施。

18（月）●全警官に週一回の禁酒デー・禁煙デーを実施。

19（火）●五相会議、防共協定強化につき独には対ソ軍事同盟、伊には対英牽制協定締結の方針決定。

20（水）●企画院、生産力拡充のため五大企業の協力によりS型標準工作機械の設計図を公開。

21（木）●満州航空機、東京―新京（長春）無着陸初飛行。

22（金）●商工省、和服は元禄袖、ズボン折り返し禁止など服装制限方針を決定。●大阪・四天王寺、世界最大級の梵鐘を献納。

23（土）●「傷痍軍人に嫁げ」の運動開始と愛国婦人会。

24（日）●相模川で第一回全日本渓流カヌー大会開催。

25（月）●ガソリン節約強化決定。自家用車は一日一㍑。

26（火）●松竹、恋愛ものをやめ国策映画に転換と声明。

27（水）●大蔵省、省内全自動車の木炭車改造を開始。

28（木）●荒木文相、総長選など帝大自治再検討を表明。

29（金）●内務省に経済保安課（経済警察）設置。

30（土）●産業報国連盟創立。労組を産業報国会へ改組。

31（日）●警視庁、コレラ防止に玄界灘の魚介類禁止。

証言・あの日この日

朝永振一郎（32）

11月23日（火）〈ゆうべは、ねどこに入ってから色々な事があたまに浮んで困った。それも涙もろい弱々しい考えばかりである。／朝おきて、はみがきようじにはみがきとまちがえてポマードをつけたりして、よほどぼんやりしているのである／さて湯川の理論も β 線のところで合わないようだ。色々実けんと合わない。ひるから散歩に出て、久しぶりで公園に行く〉（朝永振一郎「滞独日記」）

朝永は量子力学の創始者ハイゼンベルクのもとで新しい物理学を研究するために、ナチス政権下のドイツに留学していた。しかし研究にいき詰まり不眠に悩まされる日々が続く。同級生でライバルの湯川秀樹の中間子理論の成否も気になる。ところがその頃、欧州情勢が悪化。朝永は、昭和14年8月に帰国。9月にはドイツ軍がポーランドに侵入、第2次世界大戦が始まる。（山崎行太郎）

毎日新聞社

▲**動員される作家たち（8月23日）**内閣情報部が文芸家協会会長・菊池寛らと懇談、漢口攻略戦へ「ペンの力」を要請。9月、陸海軍班二十数名が出発。写真は海軍班の前列左から吉屋信子、浜本浩、佐藤春夫、菊池寛、吉川英治。

共同通信社

▲**もんぺの裁ち方講習会（8月23日）**政府の提唱した国民精神総動員運動が民間主導となり、婦人団体みずから女性の服装にもんぺを推奨。写真は愛国婦人会が東京の跡見女学校で開いた会。

▼**ソ連要人リュシコフ、亡命会見（7月13日）**1ヵ月前、粛清を恐れ「満州国」国境を越えて亡命。陸軍は彼を将軍として扱い、ともにスターリン暗殺計画を進めたとのドイツ側証言もある。

「歴史写真」

毎日新聞社

▲**1500メートル自由形で天野富勝、世界新（8月10日）**東京の神宮プールで行われた関東水上選手権大会で、18分58秒8。スウェーデンのアルネ・ボルグの記録を11年ぶりに書き替えた。写真はゴールインした天野（20）。

▼**ヒトラー・ユーゲント来日（8月16日）**ナチス公認の青少年組織に属する17〜18歳の30人が、ドイツからの使節として横浜港に到着。翌日、宮城遥拝、明治神宮参拝後、靖国神社を訪れた（写真）。

昭和13年8月

1（月）●大蔵省の庶民金庫開業。無担保の小口金融。●銅使用制限強化。一般民需の銅使用全面禁止。

2（火）●ソ連、ハバロフスクの日本領事館閉鎖を要求。●中国軍、日本軍阻止に揚子江上流の堤防破壊。

3（水）●東京府・市、中小工業者の転業相談所開設。

4（木）●商工省、乗用車の新規製造中止を通達。

5（金）●東鉄局、夏休みでふえた明治神宮・靖国神社早朝参拝の児童と付き添いの運賃割引き実施。

6（土）●ソ連軍、張鼓峰で大規模反攻（日本軍は一四四〇人が死傷。11日日ソ停戦協定成立）。

7（日）●初島―熱海間で水泳「敵前上陸レース」開催。

8（月）●大阪府視学会議が女学生のストッキング着用、教職員の洋服新調などの禁止を決定。

9（火）●文部省が学生勤労動員の効率化のため「行」と「訓練」の教育に転換、と新聞に。

10（水）●天野富勝、水泳一五〇〇㍍自由形で世界新。●拓務省、政府として初めて「大陸花嫁」を募集。

11（木）●警視庁、市内七百貨店に増築中止を命令。

12（金）●新聞用紙供給制限令公布（一二㌫減）。

13（土）●大阪府知事、白米の精米販売禁止を決定。

14（日）●本土向け金属玩具の製造禁止令公布。

15（月）●自然科学者の統制機関、科学振興調査会設置。●電車・汽車のネームプレートが木製になる。

16（火）●ヒトラー・ユーゲント、来日（〜11月12日）。

17（水）●警視庁管下の伝染病患者が二万四〇〇二人に。

18（木）●厚生省、臨時失業対策部設置を決定。

19（金）●日本雑誌協会、八〇〇誌の減頁を決定。

20（土）●シンガポールで華僑の商店が抗日運動家の釈放を要求しストライキに突入。

21（日）●豊田正子原作・高峰秀子主演「綴方教室」封切。

22（月）●大本営、漢口攻略作戦を発令。

23（火）●内閣情報部、漢口作戦に従軍作家派遣を決定。

24（水）●羽田飛行場上空で民間機同士接触し市街地に墜落、爆発。八五人死亡、四五人負傷。●富士山山頂に陸軍航空医学研究所が落成。●海軍機、中国旅客機を攻撃（29日米が抗議）。

25（木）●軍事・総動員上の必要に限り電話新加入受付。

26（金）●六大学野球に「日本主義的野球道」をと文部省。

27（土）●東京の雀荘団体、自粛決議書を警視庁に提出。

28（日）●第一回全日本学生グライダー競技大会、開幕。

29（月）●神有電車鵯越―耶馬で衝突事故。百余人死傷。

30（火）●一戸一品献納の売り上げを傷兵保護院に寄付。

31（水）●田坂具隆監督「五人の斥候兵」、ベネチア映画祭で大衆文化大臣賞を受賞。

▲ドン・バッジ、グランドスラム達成（9月24日）全豪・全仏・全英の各選手権大会で優勝してきた23歳の米テニス選手が、全米で強豪ジーン・メイコも下し、史上初の4冠を達成した。写真は全英でのバッジ。

ユニフォト・プレス

「歴史写真」

▲台風、21年ぶり首都圏襲う（9月1日）横浜の西方を通過して北上、風速は30メートルを超え、京浜間・東京では家屋の倒壊、浸水が続出、関東・東北の被害は死者・行方不明245人、負傷者137人にも達した。

毎日新聞社

▶不用品交換即売会開く（9月28日）日本婦人団体連盟主催。東京・有楽町の府商工奨励館で、3日間各家庭の死蔵品約4万点を販売。統制品の純綿・皮革も多く大人気。売り上げの8割5分が愛国貯金で出品者に。

クロマート提供

▲エノケンと18歳の李香蘭（10月）満州建国博覧会の親善使節として初来日の満映女優（本名・山口淑子）が、人気の喜劇俳優エノケンこと榎本健一の日劇の舞台に特別出演。写真はその記念撮影。

毎日新聞社

◀国民健康調査実施（9月）個人体力の向上をはかり、人的資源を充実、強化する目的の国民体力管理制度の制定に先立ち、準備調査を2府6県で実施。写真は大阪での肺活量測定。

ユニフォト・プレス

▶「ミュンヘン協定」成立（9月30日）英・仏・独・伊の4ヵ国首脳が会談、チェコのズデーテン地方のドイツ割譲が決まった。写真左からチェンバレン、ダラディエ、ヒトラー、ムッソリーニ。

昭和13年9月

1（木）●東亜研究所（総裁・近衛文麿）設立。
●関東・東北を台風直撃。二〇一人死亡。
2（金）●東京・世田谷代田婦人会、薬莢用に古足袋のこはぜを回収し陸軍省に献納。
3（土）●混雑緩和に東京・大阪近郊の二等車廃止決定。
4（日）●橿原神宮で朝日新聞社募集の「建国奉仕隊の歌」入選歌発表。約一万二〇〇〇人が合唱。
5（月）●商工省、靴材料の代用品協議会を開催。
6（火）●富山県氷見町で大火。一五四三戸焼失。
7（水）●大本営、広東攻略作戦の実施を決定。
8（木）●漢口攻略戦で華中戦線宛の小包取り扱い中止。
9（金）●東京に一三の遊歩道「保健道路」設置と新聞に。
10（土）●外交顧問制設置。佐藤尚武・有田八郎を任命。
11（日）●久米正雄ら従軍作家陸軍部隊、漢口へ出発。
12（月）●東日本一府一八県で防空訓練開始（～16日）。
13（火）●日本共産主義者団、一七八人が一斉検挙。
14（水）●米沢市の永井恵子、フィリピンの日本人労働者と結婚のため出発。「南進花嫁」の第一号。
15（木）●田中絹代・上原謙主演「愛染かつら」封切。
●夕刻時の防空訓練の空襲警報で混乱し、京浜電鉄横浜戸部駅で電車追突。百十余人重軽傷。
16（金）●内閣情報部、婦人雑誌の編集長を招集し、国民精神総動員運動に協力する編集を要求。
17（土）●古賀政男、歌手バートン・クレーン創案のオペレッタの作曲・指揮で渡米と届け出。
18（日）●仏教護国団の僧一〇〇〇人、報国托鉢を行う。
19（月）●国際連盟、日中戦争に関し日本政府に招請状を発する（22日、日本拒否）。
20（火）●政府、国立公園での金属資源開発認可と決定。
21（水）●満州重工業開発へのシンジケート団発足。五〇〇〇万円融資を決定。
22（木）●北平（北京）で日本の傀儡「中華民国政府連合委員会」成立。主席委員は王克敏。
23（金）●警視庁、「外国崇拝排撃」と来日俳優・選手へのサイン要求禁止、花束贈呈禁止など通牒。
24（土）●テニスのD・バッジ、世界初の四大大会制覇。
25（日）●八丈島に台風。一六二〇戸全半壊。農業全滅。
26（月）●眼科医師会、近視撲滅に視力保健連盟創立。
27（火）●陸軍省、新聞班を情報部と改称。
28（水）●日本婦人団体連盟、不用品交換即売会を開催。
29（木）●ミュンヘン会談開催。英仏伊、チェコスロバキアのズデーテン地方の独への割譲を承認。
30（金）●宇垣外相、陸軍提案の対華中央機関「興亜院」設置に反対して辞任。

ユニフォト・プレス

◀「火星人の襲来」で全米パニック（10月30日）CBS系で始まったオーソン・ウェルズ（23）のラジオドラマが火星軍襲来の模様を伝えたところ、現実の報道と勘違いされたもの。ウェルズの天才ぶりを示す挿話となった。

▼日本軍と「抗日壁画」（10月26日）この日、日本軍は苦戦のすえ、武漢三鎮のひとつ武昌を占領。入城してきた日本軍を待っていたのは、黄鶴楼の壁に描かれた白馬にまたがる蒋介石と中国軍の大反攻の図だった。

小柳次一

ロバート・キャパ／マグナム・フォト

▲バルセロナ近郊の国際義勇軍送別の式典（10月25日）内戦によるスペイン崩壊を恐れた共和国首相ネグリンは、フランコ軍側についた独・伊軍の排除とともに、義勇軍の撤兵を意味する諸外国不干渉を提案。

朝日新聞社

▲閉店10時を徹底（10月1日）政府は商店の長時間営業を制限するため、商店法を実施。従業員の過労が動員体制に支障をきたさないようにした。写真はラッパで閉店を呼びかける横浜・元町商店街。

▶軍国調の第2回文展（10月16日）前年、18年ぶりに復活、この年は11月20日まで東京府美術館で開催、裸体画が減り、戦争にかかわるテーマがふえた。特選31点中には棟方志功の版画「善知鳥」があった。

毎日新聞社

「国際写真新聞」

▶中国戦線の二人（9月）松竹の小津安二郎監督（右、34）と俳優・佐野周二（25）が南京で出会った時のスナップ。すでに独自の日本的リアリズムを確立していた小津は軍曹、松竹三羽烏の人気者・佐野は伍長だった。

昭和13年10月

1（土）●商店法施行。夜一〇時以降の営業を禁止。
●石炭配給統制規則施行。切符制を実施。
2（日）●宝塚歌劇団一行、日独伊親善使節として出発。
3（月）●東京府産婆会、乳児衣類・妊婦用品などの純綿製品製造禁止の解除を府知事に陳情。
4（火）●三月来活動の浅間山が大噴火。東京にも降灰。
5（水）●河合栄治郎『ファシズム批判』など四冊発禁。
6（木）●北海道・夕張炭鉱でガス爆発。一五二人死亡。
7（金）●ヒトラー・ユーゲント一行、伊勢神宮に参拝。
8（土）●陸軍中将・大島浩、駐ドイツ大使に任命。
●吉田国五郎一座、義肢作製の参考にと陸軍衛生材料廠長らに文楽人形芝居を実演。
9（日）●東京市電が鉄を半減した電車を試作と新聞に。
10（月）●米から女子ソフトボールチーム来日。
11（火）●洋書輸入制限で古書店に注文殺到、と新聞に。
12（水）●中国共産党六中全会、「国共合作」で抗戦決議。
●弾丸除けに雄の三毛猫の写真を戦地に送る迷信が関東地方に流行、と新聞に。
13（木）●商工省、慰問袋用品と医療用は綿製品を認可。
14（金）●閣議、国際連盟との協力関係を終結と決定。
●海員組合と海員協会、皇国海員同盟を結成。
15（土）●商工省、国内向け蓄音機の製造を禁止。
●鹿児島に台風直撃。死亡・行方不明四五三人。
16（日）●千葉市稲毛町で陸軍防空学校の開校式挙行。
17（月）●国民政府、英に対し米と協調してビルマ経由の軍需品援助を希望（援蒋ルート）。
18（火）●警視庁、少年警察官の採用試験を実施。
19（水）●ポーランド、「満州国」を事実上承認する。
20（木）●警視庁、塩節約で飲食店などの盛り塩を禁止。
21（金）●第二一軍、広東を占領。
22（土）●政府、列国に一般艦船の珠江（華南の大動脈で広州を流れる）航行禁止を通告。
23（日）●米映画が制限つきで解禁される、と新聞に。
24（月）●森永製菓、ブリキ禁止で容器を紙箱に変更。
25（火）●内務省、子ども雑誌の新統制方針を決定。
26（水）●大審院、線路敷設を強行された地主の原状回復請求を権利濫用として却下。
27（木）●日本軍、武漢三鎮（漢口・武昌・漢陽）を制圧。
●ベルナール監督「レ・ミゼラブル」封切。
28（金）●商工省、木炭ガスの国策乗用車五種を発表。
29（土）●政友・民政党、東亜再建国民運動宣言を発表。
30（日）●米でラジオドラマ「火星人の襲来」放送。ニュースと間違え聴取者パニック。
31（月）●蒋介石、「全国軍官民に告ぐるの書」を発表。

朝日新聞社

▲**少年警察官着任(11月21日)**大阪府警察部は日中戦争拡大による警察官不足を補うため、満17~20歳の男子を募集し、95名を採用。写真は、教育期間を終え、連絡係の任務についた少年警察官たち。

ジャック岩田/共同通信社

▲**渡米中の古賀政男、大もて(11月)**9月にニューヨークでオペレッタを作曲、この月はロサンゼルスの大和ホールで演奏会(写真)、翌年も2月にハリウッドでジャズ演奏会を開催。「古賀メロディ」は国際的だった。

毎日新聞社

◀**女性弁護士3人誕生(11月1日)**女性で初めて司法試験に合格したのは、田中正子(28)、久米愛子(28)、武藤嘉子(25)。写真は母校・女子経済専門学校で相続法を講義する田中。

▼**ナチス、ユダヤ人を襲撃(11月9日)**ユダヤ人青年がパリでドイツ参事官を殺した事件から宣伝相ゲッベルスが煽動。割れたガラスが街灯に光り、「水晶の夜」と呼ばれた。

毎日新聞社

ユニフォト・プレス

▶**辻久子(13)、文部大臣賞(11月19日)**東京の日比谷公会堂で行われた東京日日新聞社主催第7回音楽コンクールで、第1位賞とともに受賞。前回の巌本メリー・エステル(真理)に続く天才バイオリニストが誕生した。

◀**トヨタ、初の大衆車量産工場完成(11月3日)**前年末、豊田自動織機自動車部から分離独立したばかり。愛知県西加茂郡挙母町に竣工した本社工場は、トラック中心の鍛造・加工・組み立てなどをコンベアで行う一貫製造。

毎日新聞社

昭和13年11月

1(火)●田中正子ら三人、女性で初めて司法試験合格。
2(水)●帝国農会など八団体、農業報国連盟を結成。
3(木)●「東亜新秩序建設」の第二次近衛声明発表。
4(金)●職業婦人二五〇〇人が婦人厚生連盟を結成。
5(土)●恩賜財団軍人援護会、設立。
6(日)●映画製作数は日本が五八三本で米の七七八本に次いで二位、と新聞に。
●船橋市法典小学校でグライダー部結成。
7(月)●国民精神作興週間、始まる。
●中支那振興㈱と北支那開発㈱、設立。
8(火)●国家総動員法第一一条(金融統制・配当制限)の発動に池田成彬蔵相、反対を表明。
9(水)●ナチス、全土でユダヤ人襲撃(水晶の夜)。
10(木)●議会制度審で大選挙区制導入の答申原案成る。
11(金)●各省国民精神総動員部会、年賀状廃止、歳末売り出し自粛、新年会禁止を決定。
12(土)●住友金属工業の三工場、軍管理工場に指定。
13(日)●労働組合総連合、日本勤労奉公連盟と改称。
14(月)●近衛首相、国民再編成運動は非政党でと表明。
15(火)●金製品買い上げが四ヵ月で十三万二千余個にのぼり、日銀は買い上げ期間無期延期と決定。
16(水)●女性のベストセラーは火野葦平『麦と兵隊』『林芙美子全集』『風と共に去りぬ』と新聞に。
17(木)●プロ野球秋期リーグ閉幕。優勝は巨人。巨人の中島治康が初の三冠王(戦後認定)。
18(金)●京都競馬場、落成。収容人員四万人。
19(土)●一三歳の辻久子、第七回音楽コンクールのバイオリン部門で一位(文部大臣賞)。
20(日)●岩波新書、刊行。斎藤茂吉『万葉秀歌』など。
●日本放送協会、ラジオ普及運動を全国で開始。
21(月)●大西愛治郎ら天理ほんみちの三八〇人、治安維持法違反で一斉検挙(第二次ほんみち事件)。
22(火)●日本貿易振興協議会、発会。
23(水)●拓務省、翌年の満州集団移民一万五〇〇〇人、青少年義勇軍三万五〇〇〇人と決定。
24(木)●学生の就職好調、求人が求職の数倍と新聞に。
25(金)●日独文化協定、調印。
26(土)●ソ連とポーランドの不可侵条約、更新。
27(日)●東京市城東区(現・江東区)の海面約五〇万坪を埋め立てる空港建設計画に助成金が決定。
28(月)●㈱大日本航空設立。日本航空と国際航空統合。
29(火)●戸坂潤ら、旧唯物論研究会の一斉検挙始まる。
30(水)●日独親善「コンドル」機、ベルリンから南方回り四六時間余で立川着。

菊池俊吉

▲**雪の人工結晶に成功(12月26日)**北海道帝大理学部教授・中谷宇吉郎(38)が初めて成功、論文を発表した。この成果は雪氷学や雲物理学研究の基礎に。写真は低温研究室で顕微鏡写真を撮影する教授。

「国際写真新聞」

▲**パール・バックにノーベル文学賞(12月5日)**中国民衆を主題にした代表作『大地』などの作品が認められた。46歳。南京で育った米国人。賞はストックホルムでグスタフ国王から贈られた。

毎日新聞社

▶**興亜院誕生(12月16日)**中国占領地域の統轄を業務とする機関として設立。総裁は近衛首相、副総裁は外・蔵・陸・海の4相で、初代総務長官に柳川平助陸軍中将が就任。

毎日新聞社

▲**陸軍機、重慶に初の爆撃(12月26日)**集結する国民政府を追撃するため、漢口から97重爆撃機(写真)などの編隊で向かったが、悪天候のため成果はなかった。

▶**ターキー、華北慰問(12月)**松竹少女歌劇団一行18名は11月14日出発、北平(北京)の兵站病院や新郷方面で公演などの活動を行い、12日に帰国した。写真中央がターキーこと水の江滝子(23)。

◀**「援蔣ルート」完成(12月2日)**雲南とビルマ(現ミャンマー)を結ぶ道路が完成。重慶に首都を移した国民政府にとって、英・仏・米から物資補給を得る貴重な輸送路だった。写真はレド公路の先端部分。

CORBIS-BETTMANN/PPS

水の江滝子提供

昭和13年12月

1(木)●日劇で「タバコ・レビュウ」開幕。
●有楽座で新劇協同公演。新築地座は「ハムレット」、新協劇団は「千万人と雖も我行かん」。
2(金)●閣議、予算案承認。約三七億円中、軍事費三割。
●中国への物資輸送路ビルマ・ルートが完成。
3(土)●「朝日新聞」募集の「皇軍将士に感謝の歌」入選作「父よあなたは強かった」が発表される。
4(日)●第一〇回東西学生対抗蹴球で関学が初優勝。
5(月)●鹿児島県自動車業者代表、ナンバープレートを献納し木製の板で代用と県に申し出る。
6(火)●陸軍中央部、中国進攻を中止し持久戦に転換。
7(水)●競馬法施行規則改正公布。八割を政府納入へ。
8(木)●専売局がタバコの空き箱回収運動、と新聞に。
9(金)●八相会議、国民再組織案を正式決定。
10(土)●「創元選書」創刊。柳田國男『昔話と文学』など。
11(日)●藤原釜足ら出演「チョコレートと兵隊」封切。
12(月)●警視庁、左翼労働組合の国策協力への転換にともない特高部労働課の左翼係を廃止。
13(火)●次年度の鉱工関係学校卒業者割当、官庁一五〇〇人、民間五五〇〇人と決定。
14(水)●川崎市の愛国石油で蒸留釜爆発。四人死亡。
15(木)●内務省神社制度調査会、「招魂社」を「護国神社」に改称と決定。
16(金)●興亜院、設置。長官に陸軍中将・柳川平助。
17(土)●南寿逸、全日本重量挙げ大会で二種目世界新。
18(日)●汪兆銘、日本軍の支援で重慶脱出。
19(月)●都市には結核菌、農村は寄生虫と厚生省発表。
20(火)●薮田貞治郎・住木諭介、植物成長ホルモン、ジベレリンを発見。
21(水)●三井銀行、ボーナスの一部を国債で支給。
22(木)●近衛首相、対中第三次声明を発表。
●精神総動員連盟、国民服はカーキ色と決定。
23(金)●閣議、新南群島(南沙群島)の領土編入を決定。
24(土)●文部省、人民戦線事件の東大の大内兵衛・脇村義太郎、東北大の宇野弘蔵を休職処分。
●汎米会議、米州への干渉排除のリマ宣言採択。
25(日)●軍機防衛に日本地図製図家防諜連盟結成。
26(月)●逓信省、航空機製造を三菱・中島などに認可。
27(火)●富山県黒部の発電所工事現場で雪崩。鉄筋の宿舎が瞬時に吹き飛ばされ、八四人が死亡。
28(水)●国家総動員審議会、配当制限など六勅令可決。
29(木)●ハノイの汪兆銘、国民党に対日和平呼びかけ。
30(金)●東京の小学生二人が華中戦線の慰問に出発。
31(土)●川島芳子、天津の仏租界で襲撃され重傷。

我楽多市

◀福島県の大沼実業学校女子部2年の修学旅行生が、7月4日木綿の棒縞の着物にもんぺ姿で東京・銀座に現れた。

流行語
政府の強気を庶民もマネて

「相手とせず」。昭和一三年一月、近衛内閣は「国民政府を対手とせず」という声明を発表、同政府との和平交渉を打ち切った。この文句がいさぎよいというので「あんな女（男）は相手とせず」などと、さかんに用いられた。

「木炭車」。七月、東京市バスに木炭車の第一号が登場したのを皮切りに、木炭車への改造が始まった。しかしのろくて、坂道ではしばしばストップするというので、動作の緩慢な人や女性の化粧が「木炭車」と呼ばれるようになった。

「従軍作家」。八月に行われた内閣情報部と作家の懇談会で、作家を戦地へ送り、その様子を報告させることが決まった。菊池寛、吉川英治、林芙美子ら二二人が選ばれ、九月に第一陣が中国へ渡った。これが従軍作家で、国民と戦争を結びつけるために大きな役割をはたした。

「センゾク」。東京・浅草千束町のこと。吉原遊廓が全盛期を迎え妓楼三〇〇軒、娼妓二〇〇〇人と言われた。それにつれて料金も高くなったため、労働者や若者の間では千束町の私娼街が流行した。このことから、私娼を買うことを「センゾク」と言うようになった。

食
肉ジャガの創始者は あの東郷平八郎元帥

〔京都発〕庶民の食べ物として人気の高い肉ジャガのルーツは京都の舞鶴市であることがわかった。肉ジャガは日露戦争の日本海海戦で名高い東郷平八郎元帥が、舞鶴鎮守府の初代長官（当時は中将）だった時、イギリス留学中に家庭でご馳走になったジャガイモのシチューのおいしかったことが忘れられず、部下にジャガイモ料理の研究を命じたことから誕生した。その後、一度に大量に作ることができるうえ、艦内食にも適しているとして広がり、昭和一三年からは『海軍厨業管理教科書』にも掲載されて正式メニューになった（「京都新聞」平成七年九月一七日）

日本漫画資料館提供

◀まげを結えず、パーマネント反対同盟からチェックされる関取の卵。安本亮一画「気がひける」（「バクショー」創刊号）。

データ
片岡千恵蔵は六二〇〇円 有名スターの月給調べ

映画の人気は衰えるところを知らず、俳優の給料も上がる一方。おもな俳優の給料を調べたところ、次のような数字が判明した

片岡千恵蔵＝六二〇〇円、阪東妻三郎＝五五〇〇円、大河内傳次郎＝五〇〇〇円、入江たか子＝四五〇〇円、嵐寛寿郎＝三九〇〇円、長谷川一夫＝二五〇〇円、田中絹代＝八五〇円、高田浩吉＝四〇〇円。ちなみに帝大出身の超エリートが二五歳で、五〇～八〇円

（「話」一〇月号）

CM100年　ポスター「美肌に微笑む紺碧の穹——資生堂コールドクリーム、バニシングクリーム」（資生堂）

▲山本武夫が描く少女のイラストで、資生堂は若い女性にも販売層を広げた。

多田敏捷蔵

▲日中戦争勃発後初の正月で、羽子板にも時局にそった絵柄が登場。武運長久祈願（右）や日独伊友好を描く。

はやり歌

愛国行進曲

作詞　森川幸雄
作曲　瀬戸口藤吉

見よ　東海の空明けて
旭日　高く輝けば
天地の正気　潑剌と
希望は躍る　大八洲
おお　清朗の朝雲に
聳ゆる富士の姿こそ
金甌無欠　揺るぎなき
わが日本の　誇りなれ

起て　一系の大君を
光と　永久にいただきて
臣民われら　皆共に
御稜威に副わん　大使命
往け　八紘を宇となし
四海の人を　導きて
正しき平和　うち建てん
理想は花と　咲き薫る

福田俊二提供

▶広く国民から公募した軍歌。作詞は二三歳の青年、作曲は七〇歳の元・海軍軍楽隊長。各社が競作し、ミリオンセラー。

旅の夜風

作詞　西条八十
作曲　万城目正

㊚花もあらしも　踏みこえて
行くが　男の生きる道
泣いてくれるな　ほろほろ鳥よ
月の比叡を　ひとり行く

㊛やさし彼の君　ただひとり
発たせまつりし　旅の空
かわい子供は　女のいのち
なぜに淋しい　子守唄

㊚加茂の河原に　秋長けて
肌に夜風が　しみわたる
おとこ柳が　なに泣くものか
風に揺れるは　影ばかり

㊛愛の山河　雲幾重
心ごころは　隔てても
待てば来る来る　愛染かつら
やがて芽を吹く　春がくる

遠藤憲昭提供

◀映画「愛染かつら」の主題歌。霧島昇とミス・コロムビア（松原操）が歌い、映画の爆発的な人気とともに大流行。

共同通信社

▲愛国婦人会がスイカ売りの店を東京・数寄屋橋で開き、売り上げは慰問資金に。

三面記事
ナイロンの語源は農林?

昭和一三年一〇月、アメリカのデュポン社がナイロンの商品化に成功したと発表した。ところが翌年早々、桜内幸雄農相が大臣室に新聞記者を集め、スパイを通じて入手したナイロンを示しながら「ナイロンという名称は農林省の農林をひっくり返したもので、農林省をでんぐり返してやるというアメリカの意志の表れ」と語った。ナイロンは英語で書くとNYLONだが、アメリカは本当はNIRONとしたかった。これを逆から読むとノーリン＝農林となるが、それでは露骨すぎるというのでNYLONにしたというのである。

農相の〝真相〟説明によると、日本の絹は世界市場を支配しているが、アメリカはこれを目の敵にし、産業の育成を指導する農林省を憎んでいる。デュポン社が開発した化学繊維は「肌ざわりは絹そっくりで、耐久性は絹の二、三倍」と言われる夢の繊維。これで日本の優位をひっくり返すという意志をこめて、こう命名したというわけである。

（「西日本新聞」昭和一六年一月一三日）

落としもの
高価な指輪は 銀座の西側舗道に

昭和一三年に東京市内で拾われたダイヤの指輪は約三〇〇個で八万五〇〇〇円相当。そのうち一万円以上一個、五〇〇〇円以上六個、一〇〇〇円～三〇〇〇円二七個。ほかは一〇〇円以下。高価な落としものの多いのは銀座通りの西側舗道で、五〇〇〇円以上四個。次いで新宿・京王線乗り場と駅の周辺で、一〇〇〇円～三〇〇〇円の指輪が一八個落ちていた。

（「九州日日新聞」昭和一四年三月一九日）

共同通信社

◀八月、防毒マスクをつけての活動量をみるテストが、野球を通して行われた。

教育
入浴はダメ 初潮教育調査

娘に初潮をどう教えるか?——婦人雑誌がタブーとされていたテーマに挑戦した。記事の中心は高等女学校の初潮教育と母親へのアンケート。

一、初潮教育のやり方は?

「一年の一学期の修身の時間に」（長野・松本高女）

一、初潮の手当てについて

「各自に月経帯を作製させる。市販のゴムバンドは不衛生なので使用させない」（島根・松江高女）

「入浴しないことと、和服の時でもズロースをつけるよう指導。入浴してもいいという説もあるが、日本の習慣上しないことになっているから、それを守った方がいい」（兵庫・神戸第一高女）

母親への質問に女医の大御所・竹内茂代はこんな回答を寄せた

「初潮の始まる二、三年前に全身の解剖図で身体の働きを説明、さらに婦人生殖器の図で卵巣の発育や性ホルモン、子宮の変化、出血現象などを教えました」

ただしこの講義、何の役にも立たず、娘さんはいざという時には、うろうろして母親に訴えてきたという。

（「婦人公論」一一月号）

この年の初もの
車のテールランプ ドイツのベンツが採用

●カラー・アニメ　六月、明治製菓が宣伝用のカラー・アニメ「お菓子の踊り」を製作。

●防空壕　一〇月、東京・日比谷公園で初公開。四タイプあり、料金は五〇～三〇〇〇円。

●社葬　名古屋の一柳葬儀店が考案。同時に「葬儀委員長」という名称も作った。

●ホットドッグ　東京・銀座に屋台のホットドッグ売りが登場。以後、全国に広がる

毎日新聞社

▲限られた遊技としてビリヤード（撞球）人気は最高潮。第12回全日本女子撞球選手権大会より。

エンタツ、アチャコに金語楼 「吉本」の精鋭、戦火の最前線へ 爆笑！慰問団「笑わし隊」大活躍

▲エンタツ・アチャコの熱演。1月27日、江南の要衝・蕪湖の新華劇場にて。 朝日新聞社

▲昭和13年1月19日、天津に到着したばかりの「笑わし隊・北支班」が陸軍病院を慰問した。写真は、兵隊落語で人気絶頂の柳家金語楼の話芸に笑い転げる傷兵たち。 朝日新聞社

戦火の前線の将兵慰問のため、この頃、多くの芸能人が中国各地を駆けまわった。新聞社が競って派遣した慰問団の中で、最も目立ったのが吉本興業の慰問部隊「笑わし隊」だった。笑いに飢えた兵士たちは彼らを大歓迎したのだが、吉本興業は、慰問団をもがっちりとビジネスにしていたのである。

軍部も大歓迎した「笑わし隊」の慰問

昭和一三年一月一三日、上海から、前年一二月に日本軍に占領されたばかりの南京に向け、離陸した一機の戦闘機があった。機内には飛行服に身を包み、パラシュートを背負わされ、ピストルまで携帯した四人の「兵士」が乗り組んでいた。

四人とは、リーダー格の林正之助・吉本興業代表（三九）、当時人気絶頂の漫才師、横山エンタツ（四二）、杉浦エノスケ（四二）、ノンキ節で知られた石田一松（三五）——吉本興業の慰問団だったのである。彼らは日中戦争開始後、各新聞社がこぞって戦地に派遣していた慰問団の一員として、「大阪朝日新聞」とタイアップして中国に乗りこんだのだった。一行は「笑わし隊」と名乗っていた。陸海軍の航空部隊「荒鷲」をもじったネーミングだった。にもかかわらず軍部はめくじらを立てることもなく、移動用に戦闘機を提供するほど、慰問団を歓迎したのだった。

「エンタツと軍用機に乗りましたよ。今と違って、天蓋のない操縦席は吹きっさらしだ。寒いの寒むないの」と生前の林は語っている。ただでさえ寒さに震えていた林は、まもなく息の根が止まるような思いをする。なんと後部座席のエンタツが、風を避けながら一服つけていたからだ。肝をつぶした林が「ガソリンに引火するじゃないか」と怒鳴ると、エンタツは悠然と「四国の日照りや、慌てる（阿波照る）、慌てる」とのんびり洒落を返した、という。

この四人のほか、陸路で南京入りしたのが、玉松一郎（三二）、ミス・ワカナ（二八）の漫才コンビ、講談の神田ろ山（四七）というメンバーだった。さらに、この上海、南京訪問組と同時期にやはり「笑わし隊」として、北京、大連を中心にまわったのが、花菱アチャコ（四〇）と相棒の千歳家今男（四〇）コンビ、兵隊落語で知られた柳家金語楼（三六）、三味線漫談の柳家三亀松（三六）、京山若丸（五九）の五人だった。

「北支」「中支」と呼ばれていた地域に二班に分かれて慰問したのである。両班ともゲリラが出没する最前線にまで足を踏み入れていた。間近で砲声を聞きながらの公演もしばしばだった。

訪問した場所の方言や風習をすぐさま取りこんだネタを作る名人だったワカナ、一郎コンビの、「笑わし隊」という一席はこんな具合だった。

ワカナ 「声のかれるのも、体の疲れるのも忘れて、朝の一〇時から晩の一一時頃までぶっとおしでしたよ」

一郎 「まったく休む間なんてなかったですなァ」

ワカナ 「兵隊さんも子どものように、一里も二里もある道を楽しんで来られるんですもの。自分の時間やるだけやって降りられないですよ」

一郎 「そりゃ帰れんです」

ワカナ 「二〇分が三〇分、一時間もやることはたびたびでしたねェ」

この時のワカナは二〇代、しかも美人ときている。前線の兵士は久方ぶりに見る日本の若き美人に時を忘れた。来られない兵士には、見物したものが

▶一月一四日に大阪を出立した「笑わし隊」の面々。「北支」「中支」の二班に分かれ、約一カ月各地を慰問した。写真中央は吉本興業代表・林正之助。 吉本興業提供

外から見たNIPPON

“親日”を貫いた教育者・蔣君輝を激昂させた「南京大虐殺」

——佐伯 修

この年一月下旬、中国の教育者・蔣君輝（一八九二～一九八二）は、前年末に日本軍の手におちた国民政府の首都・南京に入った。前年まで東京で留学生の世話役をしていた彼は、日本人との交渉経験を買われて、上海商業銀行から、日本軍の掠奪に遭ったという南京支店の金品返還を、日本軍にかけあうことを頼まれたのである。掠奪の真相はともかく、日本側に門前ばらいされた彼は、現地で、日本軍入城直後の、掠奪、暴行、放火、殺戮について聞かされた。

「私は身の毛もよだち、怒髪天を衝く思いで、自ら武器をとってこの恐るべき鬼畜を殺したいと思い、全身の震えをどうすることもできなかった」

一九七四年に刊行された自伝『扶桑七十年の夢』の中で、蔣は、当時の心境を、こう振り返っている。とはいえ、彼が得たいわゆる「南京大虐殺」に関する情報が、あくまでも伝聞だった点も否定できない。

「『繆斌工作』成らず」展転社提供

▶留学時代、一杯一五銭の親子丼が好物だった。

しかし、東京高等師範に留学して化学教師となり、日本語教科書を著し、大戦末期には、日本に名誉ある戦争終結のチャンスを与えようとする「繆斌工作」に協力、戦後は日本に永住した親日家の彼が、思わず感情を昂ぶらせる理由は、ほかにもあった。

蔣の郷里、江蘇省武進県は、一九三七年一一月二五日に日本軍に占領されたが、この時、彼の姉は、「良民出来（みな安心して出て来い）」という呼びかけに応じて家の外へ出た人々とともに、日本軍の機銃掃射を受け、奇跡的に命拾いしているのだ。

さて、南京から戻った蔣は、上海にいた親友の日本人化学者・岡田家武に、南京で聞いた惨状を伝えた。これに対し岡田は、「日本軍の中にこのような野獣がいるからわれわれは本当に苦労をする。貴方が悲観してしまうから言わなかったが、この戦争は長引きますぞ。よほど覚悟してかからねばならない。不撓不屈の精神を持たねばなりませんぞ」と語ったという。

以後、蔣は岡田とともに、上海を拠点に日中和解のための活動を開始する。彼らの人脈には、日本側では、石原莞爾や大川周明のシンパや門下、中山優や橘樸といった東洋の精神的伝統を重視する学者たち、意外なところでは「内山書店」の内山完造、中国側では、清末の社会事業家・張謇門下の、地域互助主義的な実業家らがいた。

なお、戦後、岡田は妻子とともに自発的に中国に帰化、馬植夫として四川省で暮らしたが、「文革」で捕われ、獄死している。

声色をまねて大喜びされたのだった。

「笑わし隊」は前後三回にわたって訪中しているが、その一員の西川ヒノデはこんな経験をしている。

「満州（中国東北部）で慰問漫才を終えると将校が『もう一回やってくれませんか』と頼んできました。行った先は土蔵の中。戦地に出る前に亡くなった兵隊さんの骨箱とろうそくを前に漫才を聞いてもらい、将校さんと共に泣きました」（『読売新聞』平成二年九月一二日）

慰問もビジネスに「笑売人」吉本興業

「笑わし隊」は戦地で大歓迎されたが、帰国後も国内で引っ張りだこだった。国民一般が、戦地の実情を知りたがったこともあり、帰国直後に大阪、京都などで催された「笑わし隊凱旋公演」は超満員。勢いに乗った吉本興業では、引き続きラジオの全国放送、東京・横浜公演と「帰還報告」の興行を打ち、いずれも大成功させた。それだけでなく、レコードも各社から競って発売された。金語楼にいたっては、三月に「戦笑報告」、四月に「愚問愚答」、五月「六連発」、六月「決死の慰問」と戦場をネタにしたレコードをたてつづけにヒットさせたのだった

だが、戦局の緊迫化にともなって、演芸自体も大きな変質を迫られていったのである。

この年の四月一日、国家総動員法が公布された。漫才もただ笑わせるだけでなく、国策に対応した演出を、という声が広がり始める。「演芸報国」なる言葉が生み出され、しゃべくりの中味が「国策」にそった内容に変えられ、政府や軍部に対する批判はもとより、ちょっとしたオチョクリも、たちまち「中止ッ」という声で制止される。漫才にせよ、落語にせよ、毒もトゲも諧謔の精神もすべて骨抜きにされたのである。

それればかりではない、昭和一五年にはカタカナ語も「敵性語」として使用を禁止された。駅名を記したローマ字が姿を消し、芸名も次々と改名させられていったのである。リーガル千太・万吉は柳家に、秋田Aスケ・Bスケは英助・美助に、香島ラッキー・御園セブンは楽貴・世文へ、といった具合だった。

そして、太平洋戦争に突入し、日本軍の形勢が不利になるにつれ、寄席やホールは次々と閉鎖され、笑いは窒息させられていくのである。

▶南京の孫文の肖像前で演じる、ミス・ワカナと玉松一郎。

朝日新聞社

▲「笑わし隊」の寄せ書き。左から金語楼、エンタツ、三亀松、アチャコなど、吉本が誇る"笑いの精鋭"たち。

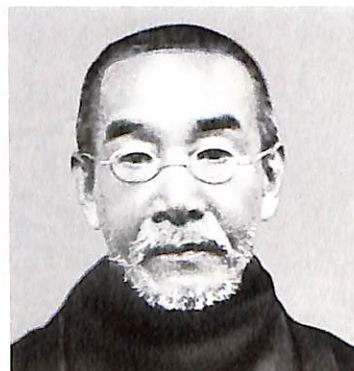
往きて還らぬ

▲2月15日　福沢桃介（69）
実業家。福沢諭吉の長女と結婚し福沢姓に。大正9年大同電力設立、社長に就任。名妓・川上貞奴との艶聞でも有名。

◀9月17日　山中貞雄（28）
映画監督。昭和七年「抱寝の長脇差」でデビュー。一二年「人情紙風船」の完成後召集され、中国で戦病死。中央。

▲4月12日　F・シャリアピン（65）
ロシアのオペラ歌手。ボリショイ劇場の花形で、1901年以降ミラノ・スカラ座などでも活躍。1922年パリに定住。

▲5月4日　嘉納治五郎（77）
明治～昭和期の教育・スポーツ界の重鎮。講道館柔道を創始。東京高等師範学校長をつとめ、日本初のIOC委員。

▲7月12日　鳩山春子（77）
教育者。明治19年共立女子職業学校（後の共立女子学園）を創設。良妻賢母の誉れ高く、元首相・鳩山一郎は長男。

▲9月17日　村上鬼城（73）
俳人。大正6年『鬼城句集』刊。みずからの耳疾や貧苦の生活を詠んだ作品は、"境涯俳句"と呼ばれた。

毎日新聞社

▲9月25日　伊藤痴遊（71）
講談師、政治家。明治中期～大正期に政治講談で人気を集めた。昭和3年衆議院議員。話術倶楽部を結成。

▲10月16日　野間清治（59）
実業家、出版人。明治44年講談社を創設。大正期「少年倶楽部」など多くの雑誌を出版、発行部数日本一を誇った。

▲11月22日　萩原恭次郎（39）
詩人。前衛詩で知られ、大正14年処女詩集『死刑宣告』刊行、内外に一大ショックを与えた。ほかに『断片』など。

毎日新聞社

▲11月22日　秦佐八郎（65）
細菌学者。北里柴三郎に細菌学を学び、後、独留学。明治43年エールリッヒと、世界初の梅毒の薬サルバルサンを創成。

▲12月4日　玉錦三右衛門（35）
力士。大正15年入幕し昭和7年横綱。優勝9回。猛稽古の生傷が絶えず、"ぼろ錦"などと呼ばれた。盲腸炎で急死。

▲12月19日　藤山雷太（75）
実業家。明治42年大日本製糖社長に就任し会社を再建、後に"藤山コンツェルン"を築く。帝国劇場も創設。

▲12月24日　ブルーノ・タウト（58）
独の建築家で、「ガラスの家」（1914年）や色彩建築などで知られる。1933年来日、桂離宮などの古建築を海外に紹介。

ミニ事典
1938年のキーワード

物資動員計画（物動）
国が定めた対象物資については、輸入力と国内供給力の限度内で軍需に優先的に配分する、とする年間計画。長期化する日中戦争下の経済運営の基本となった。前年一〇月、資源局と企画庁を統合して組織された企画院が策定、一月一六日、閣議決定された。対象物資は鉄鋼、石炭・製油等燃料類などの九六品目で、極端に民需が圧迫されたため、国民生活に「代用品時代」をもたらした。

中国連合準備銀行（連銀）
日本の傀儡政権である中華民国「臨時」政府が二月一一日に設立した政府発券銀行。三月一〇日開業。総裁は元中国銀行満州総経理の汪時璟、顧問に満鉄理事・阪谷希一がついた。この頃中国国内には国民政府の法定貨幣（法幣）が流通、連銀は独自に連銀券を発行することで中国の通貨支配をねらった。しかし、英米が支援する法幣に対して劣勢で、その流通は日本軍の占領都市、鉄道沿線に限られた。

学生狩り
警視庁が行った東京の銀座・浅草・新宿・上野・神田などの盛り場にたむろしていた学生たちの集中取締り。警察権力が個人の生活まで侵食し始めた象徴的事件と言われる。国民精神総動員週間の始まった二月一五日から三日間で七三七三人（うち女性三四一人）が検挙され、六月、早大学生代表は全学生に対して宮城遥拝の励行、麻雀・撞球（ビリヤード）場の立ち入り禁止など自粛自戒を訴えた。

国家総動員法
戦争遂行のために人的・物的資源のすべてを利用できるよう、政府に広範な権限を与えることを定めた法律。四月一日公布、五月五日施行。政府が必要と判断すれば、議会承認を必要としない勅令によって権限を発動できた。政友会・民政党ともこの法案成立に強く反対、「臣民の生存権を侵すもの」などと主張したが、いずれも軍部の強い圧力につぶされた。

電力管理法
戦時に際して政府が既存の民営電力会社の発電・送電などの運用権を強制的に握ることができるとした法律。四月六日公布。電力業界は私的所有権を否定するものとして強く反発した。業務は日本発送電（日発）が行い、全火力発電設備の六〇パーセント、送電線の四〇パーセントを所有。しかし、生産が軍需に追いつけず日発の業績は上がらなかった。

科学審議会
不足する軍用重要資源の調査、代用品の研究を行うために設けられた総理大臣の諮問機関。四月一五日設立。会長・近衛文麿首相。一七日の第一回総会で、重要資源を鉄・非鉄金属・化学薬品・燃料の四部門に分けて研究することが決まった。部門各委員長は東北大総長・本多光太郎、京大名誉教授・渡辺俊雄、東大教授の大島義清・田中芳雄。人造石油製造など三〇件の研究が具体化した。

傷兵保護院
傷痍軍人の療養・生活扶助・社会復帰などの事務を行う厚生省の外局。四月一八日、東京霞ケ関の内務省庁舎内に設けられた。総裁は本庄繁陸軍大将。九月には軍人傷痍記章を予・後備役軍人だけでなく軍病院から退院した現役軍人にも贈呈することに決め、傷痍軍人の保護徹底がはかられた。後に軍事保護院に改組。

▶四月一八日、内務省庁舎南門に掲げられた傷兵保護院の看板(右)。

作戦要務令
陸軍が、行軍や宿営、歩兵と砲兵の連合戦闘など戦時に従うべき基礎事項を示した軍令。九月三〇日制定、一〇月一日に官報で告示。昭和四年に出された戦闘綱要と陣中要務令を合わせて改編。本格的な長期戦となった日中戦争に対応する態勢を作るためだった。

マル公
国家によって指定された戦時公定価格。公のマークで表示。五月二〇日の綿糸価格を公定制として販売を規制した、綿糸販売価格取締規則公布を始まりとする。七月九日には物品販売価格取締規則が公布され、麻・ゴム製品を皮切りに、商工省の告示でどんな物資でも最高価格が設定できるようになった。対象品目は翌年九月には約九〇品目にまで拡大した。

産業報国連盟
各事業所ごとに設立された産業報国会（産報）を統制・管理する中央連絡機関。大正八年来、渋沢栄一を中心に労使一体・生産力増強を掲げて産業報国運動を行ってきた財団法人協調会が提議。七月三〇日、政府の肝煎りで創立した。理事長に前内務大臣・河原田稼吉、理事に内務省警保局長がつくなど官製の組織に変貌、昭和一五年には日本の労働界はことごとくこの産報に組みこまれた。

▲日本製鉄の清津製鉄所産業報国会の名が見える突貫工事のポスター。昭和16年後半頃。
今井俊子提供

「北支那開発」「中支那振興」
日中戦争時に中国占領地域で経済支配の中心となった二つの国策投資会社。政府のほか三菱・三井・住友の三財閥が出資。一一月七日開業。満鉄の出資で設立された興中公司を吸収、電力・運輸・鉱業・製塩などの事業に投融資。「北支那開発」は総裁・大谷尊由、資本金三億五〇〇〇万円。「中支那振興」は総裁・児玉謙次、資本金一億円。昭和二〇年九月、GHQ覚書によって閉鎖された。

汪兆銘工作
反共親日派の国民党副総裁・汪兆銘を介して日中和平を達成しようとした策謀。参謀本部軍務課長・影佐禎昭大佐らが中心になって国民党親日派と接触、一一月二〇日、両者は上海で日華協議記録に調印。汪は一二月、重慶を脱出、ハノイに逃れ、この間に発された第三次近衛声明の和平提案を受ける形で重慶政府に日中和平を訴えた。重慶政府はこれにこたえず「工作」は失敗した。

▲汪兆銘政権成立時(昭和15年3月)の記念写真。汪兆銘(手前中央)、影佐禎昭(右)。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1938
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室
本文レイアウト デザインオフィス八起き 茂村巨利 渡邉裕
編集協力 有エーピーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー・シト・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正

●写真協力
今井俊子 ジャック岩田 遠藤憲昭 C・P・オトウェイ 乙咩雅一 河西一 川上今朝太郎 菊池俊吉 菊池徳子 ロバート・キャパ 小柳次一 島田巽 但馬一憲 多田敏捷 塚嶋朝子 野口久和 服部昌一郎 福田俊二 三島佑一 水の江滝子 石英昭 村瀬あや 村瀬守保
通信社 クロマート CORBIS BETTMANN 朝日新聞社 朝日ソノラマ 共同通信社 ARCHIVE PHOTOS デジタルハウス テレビマンユニオン 展転社 マグナム・フォト PPS 報知新聞社 Pappe rfoto 毎日新聞社 ユニフォトプレス 出光興産 松竹 文学座 マツダ映画社 吉本興業 NHK放送博物館 大蔵省印刷局 大宅壮一文庫 お札と切手の博物館 川喜多記念映画文化財団 古賀政男音楽博物館 JLBS mithInstitute of Ichthyology たばこと塩の博物館 中国文化省 逓信総合博物館 日本近代文学館 日本漫画資料館 パイロット筆記具資料館 ロシア州立映画写真資料館

週刊YEAR BOOK 日録20世紀
第51号 2月17日(火)発売 定価560円 本体533円 毎週火曜日発売 講談社

1939［昭和14年］

●特集
「我未だ木鶏に及ばず」"常勝"双葉山、七〇連勝ならず!／関東軍、ソ連機械化部隊の前に壊滅! 「ノモンハン事件」の悲惨と教訓／平均年齢二四歳の設計陣が挑戦 名機「零戦」誕生!／ドイツの電撃作戦で第二次大戦勃発 "見殺し"にされたポーランド崩壊!

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…靖国神社で戦車大展覧会(1月8日)／スペイン内戦終結(2月25日)／日本軍、天津の英仏租界を封鎖(6月14日)／「白紙」召集始まる(8月1日)／独ソ不可侵条約締結(8月23日)／初の興亜奉公日(9月1日)／ヒトラー暗殺未遂事件(11月8日)／「白米禁止令」施行(12月1日)／霧島昇・松原操結婚(12月17日)

●人物クローズアップ
"飛行機王"中島知久平と「零戦」

●決定的瞬間
神出鬼没の独戦艦「シュペー」、自爆!

●美の出会い
第一回「聖戦美術展」が大盛況

●女たちの肖像…三浦環と「蝶々夫人」／勝者・敗者…第一回桜花賞で"大穴"!／証言・あの日この日…小津安二郎、色川大吉／「現場」を歩く…渋谷と地下鉄銀座線の六〇年／20世紀博物館…家具の博物館(東京)／外から見たNIPPON…コリン・ロスが目撃した「出征」と「葬列」

●ベストセラー…谷崎潤一郎『源氏物語』／スターと名場面…戦争映画「上海陸戦隊」／モノ語り'39…「セイコーシャプレッション」「満蒙絵はがき」

■既刊好評発売中（既刊50冊! 1940・1950・1960・1970年代がそろいました）

一九四〇年代
第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代
第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九六〇年代
第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第5号1963［昭和38年］ 第2号1964［昭和39年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第4号1970［昭和45年］

一九七〇年代
第29号1971［昭和46年］ 第7号1972［昭和47年］ 第30号1973［昭和48年］ 第31号1974［昭和49年］ 第32号1975［昭和50年］ 第9号1976［昭和51年］ 第33号1977［昭和52年］ 第34号1978［昭和53年］ 第35号1979［昭和54年］ 第8号1980［昭和55年］

最新刊
第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］

■今後の刊行予定
▶第52号1940［昭和15年］2月24日発売
「紀元は二千六百年!」●「贅沢は敵だ!」、統制強まる●日独伊三国同盟締結●"海の狼"Uボート
▶第53号1981［昭和56年］3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●「残留孤児」来日●「窓ぎわのトットちゃん」●「フルムーンパス」大ヒット
▶第54号1982［昭和57年］3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●三越「秘宝展」騒動●日米コンピュータ戦争●ブレジネフの"失意と死"
▶第55号1983［昭和58年］3月17日発売
東京ディズニーランド誕生!●大韓航空機撃墜事件●「荒れる教室」●ドラマ「おしん」が高視聴率獲得
▶第56号1984［昭和59年］3月24日発売
冒険家・植村直己の死●「かい人21面相」は闇に消えた!●「風の谷のナウシカ」ヒット●アフリカの飢餓
▶第57号1985［昭和60年］3月31日発売
日航ジャンボ"御巣鷹の悲劇"●エイズ、日本上陸!●「スーパーマリオ」大ブレイク!●"1億総グルメ"

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1938
●幻の東京オリンピック！
2月24日号
第2巻第7号 通巻50号
平成10年2月24日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
発売所 株式会社 講談社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1295（販売）03-5395-3604
定価560円
本体533円

雑誌 23714-2/24
Ⓛ-2001/1/1
T1123714020566

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社